

令和 5 年度農山漁村振興交付金
農山漁村発イノベーション推進事業
(農福連携型のうち普及啓発・専門人材育成推進対策事業)

「認知度向上セミナー」
「交付金活用セミナー」
「農福連携フォーラム&マルシェ」
「農福連携技術支援者の集い」

<事業実績報告書>

概要版

2024 年 3 月 31 日



農都総研

株式会社農都共生総合研究所

目次

事業内容	3~4p
認知度向上 web セミナー(1回目)	5~6p
認知度向上 web セミナー(2回目)	7~8p
交付金活用セミナー	9~10p
農福連携フォーラム&マルシェ in 北海道	11~12p
農福連携フォーラム&マルシェ in 東北	13~14p
農福連携フォーラム&マルシェ in 北陸	15~16p
農福連携フォーラム&マルシェ in 中国四国	17~18p
農福連携フォーラム&マルシェ in 近畿	19~20p
農福連携フォーラム&マルシェ in 東海	21~22p
農福連携フォーラム&マルシェ in 九州	23~24p
農福連携フォーラム&マルシェ in 関東	25~26p
農福連携技術支援者の集い	27~28p
セミナー・フォーラム申込者アンケート総計	29p
フォーラム実施後アンケート会場比較・合算	30~31p
マルシェ購入者アンケート全会場合算	32p
マルシェ全出店者対象実施後アンケート	33p
まとめ	34~36p

本アンケートを見る際の注意点

- ・申込者数、参加者数、アンケートには主催者・登壇者は含んでいない。
- ・セミナー及びフォーラム申込者のアンケートは、本事業のイベント募集をすべてオンラインで行っていることから、提出率はほぼ 100%である。しかし、各設問については回答が必須ではないため回答率にはばらつきがある。
- ・セミナー及びフォーラムの実施後アンケートもオンラインで行っているが、イベント実施後にアクセスすることは任意であるため、回答率は低い。無作為抽出によるサンプリングではないため全体を代表してはいない。
- ・マルシェ購入者アンケートは、各マルシェ会場で主催スタッフが購入者に直接声掛けをし、回答を得た。
- ・『農福連携』街頭認知度調査』は、マルシェ会場やその周辺で、主催スタッフが無作為に通行人に声を掛けシール投票によって行った。

事業内容

「農福連携等推進ビジョン」で示された農福連携の課題である「知られていない」「踏み出しにくい」「広がっていない」を解決する取組として、認知度向上 WEB セミナーを 2 回、交付金活用 WEB セミナー 1 回、農福連携技術支援者の集い 1 回、フォーラム&マルシェを全国 8 都市で各 1 回、を開催した。

官民挙げて農福連携の取組を推進していくためには、農業と福祉の両分野に関係する人々の認知を高めることはもとより、広く国民の政策への理解が欠かせない。

これらイベントに向けた地域関係者への協力要請や集客といった準備活動において多くの説明機会が派生していくことの普及啓発に資する効果は大きい。

とりわけ本事業のフォーラム&マルシェは地方農政局の管轄地域を対象に都道府県を超えた広域から先進事業者が集まったことに特徴がある。

【認知度向上 WEB セミナー】

農福連携に関心を持ち始めた層を対象とし、わかりやすく親しみやすい形で農福連携の魅力を伝え、具体的な一歩を踏み出すことを促した。専門家による総論と福祉団体や農業者、企業等の当事者による各論で構成し、基礎的な内容や具体的な事例までがわかる内容とした。

【フォーラム】

開催地域における農福連携の取組としてノウハウ・アワード受賞事業者を中心に「参考としやすい」多様なパターンの先進事例を紹介し、農福連携に参画する事業者の増加を促した。基調講演を依頼した先進事業者については事前調査を行った上で紹介動画を作成して講演の冒頭で放映した。開催地域の地方農政局の協力を得るなどして地方自治体関係者にも参加を呼びかけることで、農福連携に関係している行政関係者と民間事業者とが一堂に会する場ともなった。

【マルシェ】

フォーラム会場の近隣で同時開催した。開催情報を知って来場する関心のある人々だけではなく、たまたま通りかかった未だまったく農福連携という言葉すら知らない人々にも取り組みの意義や魅力に触れる機会を創出することを目的に、中心市街地の商業施設内や広場などの人の行き交う場所を会場に選定した。先進事業者の地域的広がりを見える化するためにフォーラムとマルシェに参加した事業者を紹介する『農福連携魅力物語 MAP』を作成し、フォーラム&マルシェのチラシの裏面に印刷したリーフレットを事前の広報活動やマルシェ当日の会場を中心に配布し啓発に努めた。

【農福連携技術支援者の集い】

前年度に続き 2 回目の集いを開催した。農福連携の研究者と、福祉、農業、企業、行政の各現場で農福連携に取り組む農福連携技術支援者が登壇し、農福連携を取り巻く情報と課題を共有するとともに、農福連携技術支援者間の交流を図った。

【交付金活用 WEB セミナー】

農山漁村振興交付金を利用して農福連携事業を軌道に乗せている農業者と福祉事業者からの実践報告と、農林水産省と厚生労働省の担当官から農福連携の取り組みを後押しする政策メニューの紹介を行った。

【オンライン特設サイトの開設】

各イベントの広報や記録、情報集約を目的としてポータルサイト『マイナビ農業』上に特設サイト『農福連携魅力物語』を開設した。

<https://agri.mynavi.jp/regional-agricultural-welfare-collaboration/>

【効果検証】

各イベントの参加者・出店者の募集時と実施後にアンケートを行い、実態調査や効果検証を行った。マルシェ会場では購入者アンケートや街頭認知度調査も行った。

開催日	イベント名	会場（所在地）
2023/7/25	農福連携 WEB セミナー （認知度向上 web セミナー①）	配信会場：ホテル東京ガーデンパレス 3 階 桂 （東京都文京区湯島 1-7-5）
2023/8/22	農福連携 WEB セミナー （認知度向上 web セミナー②）	配信会場：ホテル東京ガーデンパレス 3 階 桂 （東京都文京区湯島 1-7-5）
2023/9/8	農福連携フォーラム & マルシェ in 北海道	ASTY45 中研修室 1206 （北海道札幌市中央区北 4 条西 5-1） 札幌駅前通地下広場 （北海道札幌市中央区大通西 3）
2023/9/22	農福連携フォーラム & マルシェ in 東北	SS30 第 1・2 会議室 （宮城県仙台市青葉区中央 4-6-1） AER2 階アトリウム （宮城県仙台市青葉区中央 1-3-1）
2023/10/12	農福連携フォーラム & マルシェ in 北陸	TKP 金沢新幹線口会議室 会議室 3A （石川県金沢市堀川新町 2-1） 金沢駅東もてなしドーム地下広場 （石川県金沢市木ノ新保町 2）
2023/10/18	農福連携フォーラム & マルシェ in 中国四国	Central Forest 4 階ローズマリー （岡山県岡山市北区本町 6-30 第一セントラルビル 3 号館） イオンモール岡山 未来スクエア （岡山市北区下石井 1 丁目 2 番 1 号）
2023/10/26	農福連携フォーラム & マルシェ in 近畿	TKP ガーデンシティ京都タワーホテル 9 階 飛雲 （京都府京都市下京区東塩小路町 721-1） イオンモール KYOTO （京都府京都市南区西九条鳥居口町 1）
2023/11/8	農福連携フォーラム & マルシェ in 東海	ツドイコ名駅東カンファレンスセンターRoomD （愛知県名古屋市中村区名駅 3-21-7 名古屋三交ビル 2 階） オアシス 21 （愛知県名古屋市中区東桜 1-11-1）
2023/12/7	農福連携フォーラム & マルシェ in 九州	出島メッセ長崎 102 会議室 （長崎県長崎市尾上町 4-1） 長崎浜屋 1 階アーケード （長崎県長崎市浜町 7-11）
2023/12/22	農福連携技術支援者の集い	千葉大学松戸キャンパス 100 周年記念戸定ヶ丘ホール （千葉県松戸市松戸 6 4 8）
2024/1/30	農福連携フォーラム & マルシェ in 関東	JP タワー ホール&カンファレンス カンファレンスルーム A （東京都千代田区丸の内 2-7-2 KITTE4 階） 東京シティアイパフォーマンスゾーン （東京都千代田区丸の内 2-7-2 KITTE 地下 1 階）
2024/2/2	農福連携交付金活用セミナー	配信会場：ホテル東京ガーデンパレス 2 階 牡丹 （東京都文京区湯島 1-7-5）

アーカイブ動画一覧サイト

<https://www.notosoken.jp/noufuku/%E4%BB%A4%E5%92%8C%EF%BC%95%E5%B9%B4%E5%BA%A6/#arcmovie>

農福がはじめてのあなたに。

参加費
無料

農福連携 WEBセミナー

～農福連携のススメ～

参加
募集中

農福連携ってなに？

障害者等の就労の場の創出だけではなく、農業者の減少等の課題を抱える農業側にとっても、人手の確保や地域農業の維持・活性化等の効果があり、「農業」と「福祉」の双方の課題解決につながる取組として、様々な形で全国的な広がりを見せています。この機会に「農福連携」を知ってみませんか？

開催日時 2023年 **7/25** (火) 13:00～16:00

応募期間 **6/26** (月)～**7/21** (金) ※応募者多数の際は先着順とさせていただきます。

場所 **WEB開催** zoomURLは別途事務局よりご連絡いたします。

※リアルタイム視聴が難しい場合も、お申込み頂きますと、後日録画URLをお送りさせていただきます。

セミナー内容

農福連携に興味のある方々に向け、【総論】【福祉団体】【農業者】【企業等】の各観点から、講師による基礎的な内容や具体的な事例までがわかるWEBセミナーを開催します。

- 1 **【総論】 農業と福祉の連携に関する展望 ～農福連携研究の視点から～**
農研機構西日本農業研究センター 研究員 中本 英里 氏
- 2 **【福祉団体による取組】 農福一体のソーシャルファーム**
埼玉福興株式会社 (埼玉県熊谷市) 代表取締役 新井 利昌 氏
- 3 **【農業者による取組】 ネギ栽培で実践する組織的な農福連携**
有限会社岡山県農商 (岡山県岡山市) 代表取締役 板橋 良樹 氏
- 4 **【企業による取組】 16年目の挑戦 コクヨが取り組む農福バランス**
ハートランド株式会社 (大阪府泉南市) 代表取締役 水谷 亨 氏
- 5 **農林水産省からの情報提供**
- 6 **ワークシート&フィードバック**
本セミナーで得た知識を整理し、考えを深めるためのワークと、中本氏によるフィードバックの時間をご用意しております。

※セミナーの内容は予告なく変更する場合がございます。

受講対象 農福連携に興味のある方全般 農業者、社会福祉法人、企業経営者・担当者等 どなたでもお気軽にご参加ください！

申込方法 [申込はこちら](#)



<https://forms.gle/m5DRaZvu78Phy4WA>

お問い合わせ先

株式会社農都共生総合研究所

TEL **03-3868-0889**

E-mail noufuku@notosoken.jp

営業時間 10:00～18:00

※土日祝・年末年始を除く

講師プロフィール



農研機構
西日本農業研究センター
研究員
中本 英里 氏

専門は農業経済、農業経営。農福連携の効果に関する調査研究を始め、学術研究の実績も多数あり。数多くの講演やセミナーの講師を務め、農福連携の普及推進に尽力している。平成25年には、ヤンマー学生懸賞論文大賞受賞、平成30年には、地域農林経済学会個別報告優秀賞を受賞している。



埼玉福興株式会社
(埼玉県熊谷市)
代表取締役
新井 利昌 氏

「ソーシャル・ファーム」として、障害者やニート、罪を犯した者など、社会的に排除されやすい方々に対し、自立のきっかけとなる活動ができる場や居場所を地域内で提供しながら、地域を支える担い手として社会循環を創りだしている。



有限会社岡山県農商
(岡山県岡山市)
代表取締役
板橋 良樹 氏

岡山県の農業生産法人。平成20年にNPO法人岡山自立支援センターを設立。青ネギ、ミニトマトの周年出荷をメインにさまざまな農産物の生産・加工・販売を行っている。障害者と高齢者を積極的に雇用しており、農福連携の発展に尽力している。



ハートランド株式会社
(大阪府泉南市)
代表取締役
水谷 亨 氏

平成18年に設立したコクヨ株式会社の特例子会社。特例子会社の農地所有適格法人としては日本初の取組事例である。令和4年度は、知的障害者5名・精神障害者2名を含む従業員17名が、養液栽培によりサラダほうれんそう等を通年で栽培。24時間コンピュータ管理を導入し、高品質な野菜を安定的に生産している。

主催：株式会社農都共生総合研究所



上段左から、農水（八巻課長補佐、福田調整員）、水谷氏、新井氏、下段左から、農都（川辺）、中本氏、板橋氏

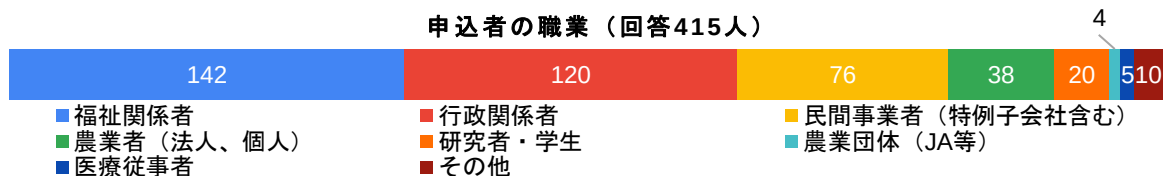
認知度向上 web セミナー①

開催日時 2023年7月25日(火)13:00~16:00

オンライン開催

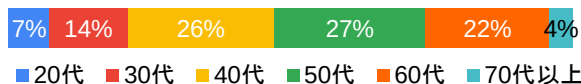
申込数：415件 参加者数：296人

申込者の職業（回答415人）



実施後アンケート

年齢（回答124人）



セミナー理解度（回答125人）



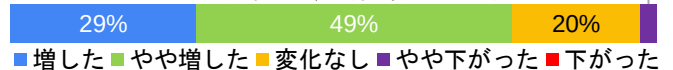
セミナー内容の満足度（回答125人）



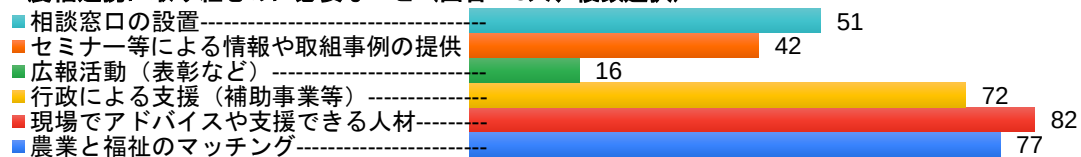
農福連携の取組状況（回答125人）



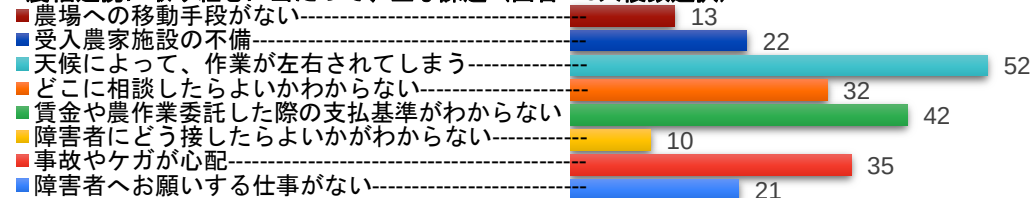
取組意欲（回答125人）



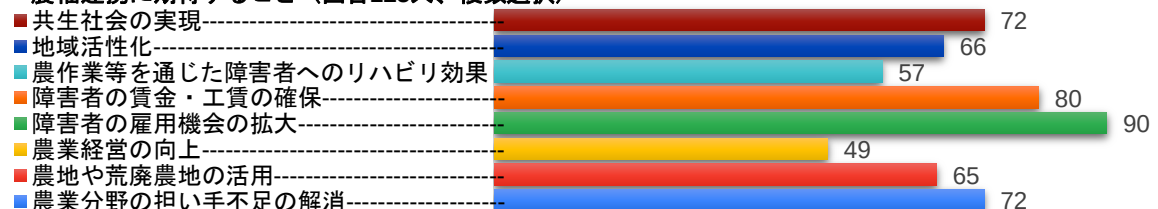
農福連携に取り組むのに必要なこと（回答125人、複数選択）



農福連携に取り組むに当たって、主な課題（回答119人複数選択）



農福連携に期待すること（回答125人、複数選択）



農福がはじめてのあなたに。

参加費
無料

農福連携

WEBセミナー

～農福連携のススメ～

参加
募集中

農福連携ってなに？

障害者等の就労の場の創出だけではなく、農業者の減少等の課題を抱える農業側にとっても、人手の確保や地域農業の維持・活性化等の効果があり、「農業」と「福祉」の双方の課題解決につながる取組として、様々な形で全国的な広がりを見せています。第1回目とは異なる講師陣を迎え、新たな視点・考え方を知るセミナーとなっております。この機会に「農福連携」を知ってみませんか？

開催日時 2023年 **8/22(火)** 13:00～16:00

応募期間 **7/25(火)～8/18(金)**

※応募者多数の際は先着順とさせていただきます。

場所 **WEB開催**

zoomURLは別途事務局よりご連絡いたします。

※リアルタイム視聴が難しい場合も、お申込み頂きますと、後日録画URLをお送りさせていただきます。

受講対象 農福連携に興味のある方全般、農業者、社会福祉法人、企業経営者・担当者等 どなたでもお気軽にご参加ください！

申込方法 申込はこちら ▶▶▶



<https://forms.gle/UMRz77ybEY78Ue8M6>

お問い合わせ先

株式会社農都共生総合研究所

TEL

03-3868-0889

E-mail

noufuku@notosoken.jp

営業時間

10:00～18:00 ※土日祝・年末年始を除く

セミナー内容

農福連携に興味のある方々に向け、【総論】【福祉団体】【農業者】【企業等】の各観点から、講師による基礎的な内容や具体的な事例までがわかるWEBセミナーを開催します。

1

【総論】

農業関係者、福祉関係者、障がい者、保護者目線からみた農福連携

酪農学園大学
(北海道江別市)教授

義平 大樹氏



2

【福祉団体による取組】

フラワーパッケージセンターの地域に密着した農福連携の取組

社会福祉法人ハイジ福祉会
(福岡県八女市)施設長

山口 隆充氏



3

【農業者による取組】

農業が果たす地域福祉への関わり方

株式会社耕野
(岩手県花巻市)代表取締役

安藤 誠二氏



4

【企業による取組】

「ありがとう」の気持ちを込めて～私たちの農福連携～

はーとふる川内株式会社(徳島県板野郡北島町)
代表取締役社長

山田 圭吾氏



5

農林水産省からの情報提供

6

ワークシート&フィードバック

本セミナーで得た知識を整理し、考えを深めるためのワークと、義平氏によるフィードバックの時間をご用意しております。

※セミナーの内容は予告なく変更する場合がございます。



左から山口氏、安藤氏、山田氏、義平氏

認知度向上 web セミナー②

開催日時 2023年8月22日(火) 13:00~16:00

オンライン開催

申込数: 305件 参加者数: 182人



農林水産省
八巻課長補佐 福田調整員

申込者の職業 (回答298人)

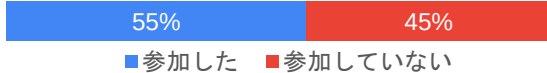


実施後アンケート

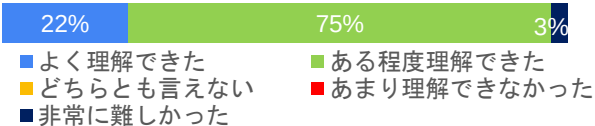
年齢 (回答79人)



第1回目のセミナーにご参加 (回答80人)



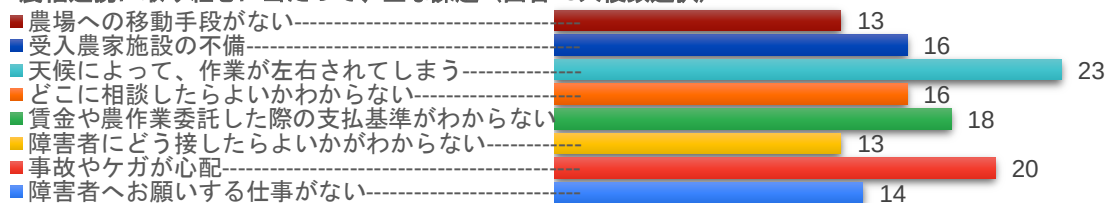
はじめての参加で理解度は? (回答36人)



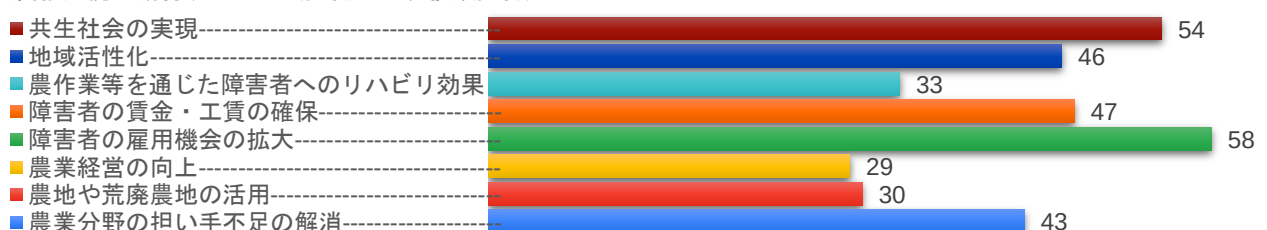
農福連携に取り組むのに必要なこと (回答77人、複数選択)



農福連携に取り組むに当たって、主な課題 (回答75人複数選択)



農福連携に期待すること (回答77人、複数回答)



交付金の活用を
知りたいあなたへ。

参加
募集中

農福連携

オンライン開催
参加費
無料

交付金活用セミナー

2024 2月2日(金)

13:30~15:30 ※13:00~ 受付開始

120分で
わかる!

農山漁村振興交付金
農山漁村イノベーション対策
(農福連携型)とは?

農福連携の一層の推進に向け、障害者等の農林水産業に関する技術習得、農業体験を提供するユニバーサル農園の開設、作業に携わる生産・加工・販売施設の整備等を支援します。

受講対象

- 農山漁村振興交付金 農山漁村イノベーション対策(農福連携型)に興味ある方全般
- 農福連携に係る障害者施設の開設を検討されている方

開催方法 オンライン

zoomURLをお申込後にご連絡申し上げます。

*リアルタイム視聴が難しい場合も、お申込者へは後日アーカイブ用URLをお送りします。

応募締切 2024年1月31日(水)

お問い合わせ

noufuku@notosoken.jp

お申込はこちらから ▶



講演内容

農山漁村振興交付金 農山漁村イノベーション対策(農福連携型)に関心ある方へ向け、過去に採択された農業者・福祉団体の事業者による事例発表と、農林水産省による概要説明を行います。また、厚生労働省による農福連携に関する事業の情報提供を行います。

01 農業者による事例

「作業効率向上と就労者の自信創出及び収益拡大を実現」

株式会社希望ファーム 代表取締役

白石 拓麻 氏

農山漁村振興交付金を活用し、ピーマン栽培における農作業等の作業効率を向上し、就労者の技術習得と自信の創出を実現。販路拡大と通年業務による収益拡大にも取り組んでいます。



02 福祉団体による事例

「ジェラート加工販売等の6次産業化と農業法人設立を実現」

株式会社リーフエッジ 代表取締役社長

田中 基次 氏

農山漁村振興交付金を活用し、労働対価として得た果物をジェラートに加工・販売という6次産業化を実現。就労希望者の雇用のために農業法人を設立し、昨今ではアグリツーリズムにも取り組んでいます。



03 農林水産省からの概要説明について

04 厚生労働省からの農福連携に係る支援について

*セミナー内容は予告なく変更する場合がございます。

主催：株式会社農都共生総合研究所



厚生労働省小松係長

農林水産省青木係員



白石氏



田中氏

交付金活用セミナー

開催日時：2024年2月2日（火）13:00～16:00

開催方法：オンライン

申込数：213件

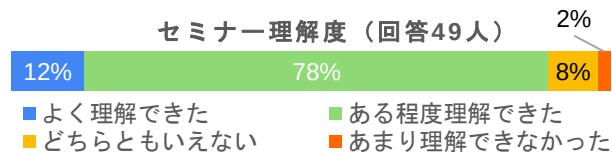
参加者数：158人

申込者の職業（回答212人）



実施後アンケート

セミナー理解度（回答49人）



セミナー満足度（回答50人）



年齢（回答50人）



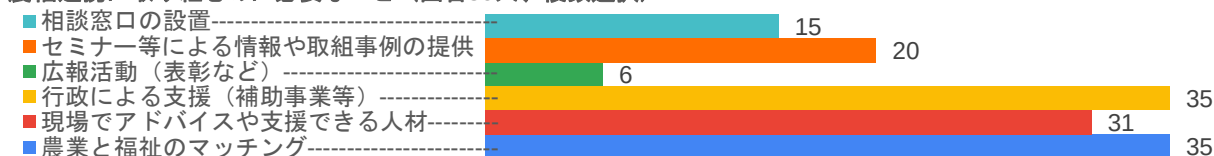
農福連携の取組状況（回答者48人）



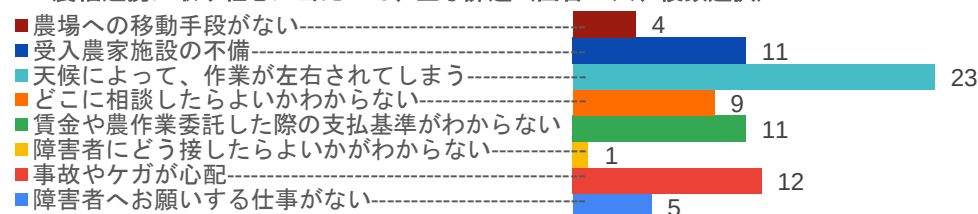
取組意欲（回答者50人）



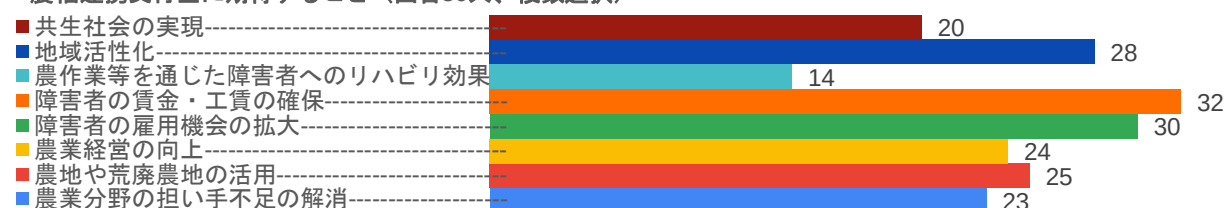
農福連携に取り組むのに必要なこと（回答50人、複数選択）



農福連携に取り組むに当たって、主な課題（回答44人、複数選択）



農福連携交付金に期待すること（回答50人、複数選択）



農福連携 マルシェ in 北海道

～農福連携魅力物語～

北海道農福連携の魅力満載! 農業と福祉がつながって、人も地域も元気に。そんな農福連携の現場で丁寧に育てられた農産物等と、それらを活用した美味しい加工品が北海道各地から大集合!! 9月8日10時より、「チ・カ・ホ」北大通交差点広場(東)にてマルシェを開催します!!! 皆様のご来場を心よりお待ちしております。

場所▶ 札幌駅前通地下広場「チ・カ・ホ」北大通交差点広場(東)
〒060-0042北海道札幌市中央区大通西3

2023 9/8(金) 10:00～17:00

参加費 無料

農福連携の魅力とは?

障害者等の就労の場の創出だけでなく、農業従事者の減少等の課題を抱える農業側にとっても、人手の確保や地域農業の維持・活性化等が期待でき、「農業」と「福祉」の双方の課題解決につながる取組として、様々な形で全国的な広がりを見せています。

農福連携の現場には、いきいきと農業に取り組む人々や、人と人とのつながり、そして丹精込めて育てられた農産物やそれらの付加価値を高める加工品など、多彩な魅力があらわれています。この機会に是非、北海道の地域資源を活用した農福連携のさまざまな取組について学んでみませんか。

農福連携フォーラムも同時開催!

アスティ45ビル
北海道札幌市中央区北4条西5丁目にて13時～16時まで開催しています!! (裏面参照!)

※写真はイメージです。

※マルシェの内容は、予告なく変更する場合がございます。

主催：株式会社農都共生総合研究所

農福連携フォーラム in 北海道

～農福連携魅力物語～

農林水産省 令和5年度 農山漁村振興交付金事業

2023 9/8(金) 13:00～16:00

参加費 無料

農福連携の魅力とは?

障害者等の就労の場の創出だけでなく、農業従事者の減少等の課題を抱える農業側にとっても、人手の確保や地域農業の維持・活性化等が期待でき、「農業」と「福祉」の双方の課題解決につながる取組として、様々な形で全国的な広がりを見せています。

農福連携の現場には、いきいきと農業に取り組む人々や、人と人とのつながり、そして丹精込めて育てられた農産物やそれらの付加価値を高める加工品など、多彩な魅力があらわれています。この機会に是非、北海道の地域資源を活用した農福連携のさまざまな取組について学んでみませんか。

農福連携フォーラム

開催形式
ハイブリッド開催 (現地 + オンライン参加)
会場▶ アスティ45ビル
北海道札幌市中央区北4条西5丁目1

2023/9/8(金) 13:00～16:00

農福連携マルシェも同時開催!

札幌駅前通地下広場「チ・カ・ホ」北大通交差点広場(東)
〒060-0042北海道札幌市中央区大通西3
10時～17時まで開催しています!! (裏面参照!)

広場開催
9月4日(月)まで

定員
現地参加：50名 オンライン参加：300名以内

お問い合わせ
株式会社農都共生総合研究所
noufuku@notosoken.jp

お申込はこちら▶

主催：株式会社農都共生総合研究所

農福連携 魅力物語 MAP in 北海道

「農福連携フォーラム&マルシェin北海道」では、魅力ある様々な取組が大集合! 北海道のさまざまな地域で、農業を通じて障害者などが働く場所や居場所をつくっている取組をご紹介します。

共同学舎 新得農場
所在地：上川郡新得町

農福連携フォーラム講演者 ▶ 農福連携マルシェ

就労に困難を抱える人々を受け入れ、一緒に活躍していくソーシャルファームの取組が中心として、ノフクアワード2022でグランプリを受賞。畜産、野菜を主として、チーズ等の加工や6次産業化にも取り組む売店・カフェを経営しており、チーズでは、国際的な賞も受賞している。

ホームページ ▶

NPO法人 サトニクラス
所在地：樺戸郡月形町

農福連携フォーラムパネリスト ▶ 農福連携マルシェ

障害者に対してはチームを編成し、野菜生産から製造・販売までを一貫して行うことで、安定した通年作業を実現。漬物原料用野菜の自家栽培や漬物の製造、直売所の運営のほか、冬場の除雪作業の受託を行うなど、障害者の働く場の創出に加えて、地域を支える存在としての役割も果たしている。

ホームページ ▶

社会福祉法人 ゆうゆう
所在地：石狩郡当別町

農福連携フォーラムパネリスト ▶ 農福連携マルシェ

障害者や認知症高齢者等、誰もがいきいきと生活できる場としてのレストランや「農業×福祉」「アート×学校」を推進させ、成人期の障害者における生活・余暇・就労活動のサポートを行う生活介護事業所の運営など、様々なプロジェクトに取り組んでいる。

ホームページ ▶

合同会社 カレイドスコープ
所在地：札幌市北区

農福連携マルシェ ▶

人手の足りない農家とははるかに仕事がない福祉事業所が、農福連携コーディネーターのもとと連携を行ない、年間を通して直接でキラガサを栽培し、販売・加工も行っている。

ホームページ ▶



札幌刑務所
所在地：札幌市東区

農福連携マルシェ ▶

機外作業として、農業活動を行う。馬鈴薯、玉ねぎ、さつまいも、枝豆・落花生・スイートコーン・牧草等を栽培している。

ホームページ ▶

多機能型事業所び〜か〜ぶ〜WORKS (就労A型・就労B型)
所在地：札幌市

農福連携マルシェ ▶

同事業所は長沼町に3反ほどの自社農場を設けており、事業所内には加工工場も設けている。生産・加工・販売(6次産業)を全て自社で行い、様々なイベントや道の駅、スーパーなどで販売。1月には子どもも農業が苦手・苦手なことで販売。1月には子どもも農業が苦手・苦手なことで販売。

ホームページ ▶

株式会社 エムリンク夢ア 就労支援事業所リブリあ〜の
所在地：北見市

農福連携マルシェ ▶

全ての人が種やから種のある暮らしが望めるようサポートを行なう。手作りにこだわりの加工品を製造している他、増産・加工の製造、じゃがいも・玉ねぎ・ミニトマト等の栽培、カフェでの接客業務等、幅広く行っている。

ホームページ ▶

株式会社 九神ファームめむろ
所在地：河内郡芽室町

農福連携フォーラムパネリスト ▶ 農福連携マルシェ

ジャガイモ、カボチャ、小豆の栽培や、ジャガイモの皮むき・カット、真空パック包装などの1等認定加工を行っている。生産・加工した農作物を消費が100%購入・展開することで、収益の安定化や障がい者の安定的かつ継続的な雇用や企業価値の向上を実現。

ホームページ ▶

社会福祉法人 空知の風
所在地：紋別市

農福連携マルシェ ▶

知的障がいのある方達の地域生活支援・就労支援を通じて、利用障がい者の自己実現を助ける社会福祉法人「パン製造、菓子製造、食糧製造、創作活動等」を行っている。

ホームページ ▶

社会福祉法人 新冠ほくと園
所在地：新冠郡新冠町

農福連携マルシェ ▶

知的障害者の方を対象とした日中活動支援や就労活動支援、利用障がい者一人ひとりにあった暮らし支援・社会生活支援や訓練・指導の支援を行う。菓子・パンの製造から販売や、市内の企業での実習支援などを行い、地域で生活する方達の訓練や生活支援に尽力。

ホームページ ▶

社会福祉法人 北海道光生会
所在地：美幌市

農福連携マルシェ ▶

1964年開設の知的障害児施設「美幌学園」を前身に、設立以来、主に知的障害のある方達の社会自立の支援を行う。障害のある方達の「住む」「働く」「楽しむ」「その人、自分らしく」を支援し、地域社会への理解と交流を進めている。

ホームページ ▶

※農福連携マルシェ出店者は予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。



左から、川辺（農都）、小泉氏、目田氏、錦織氏、楠氏、宮嶋氏

農福連携フォーラム in 北海道

【会場】ASTY45 中研修室 1206（札幌市中央区北4条西5丁目アスティ 45 12F）

【日時】2023/9/8(金)13:00~16:00

【申込】現地：17人 オンライン：62人 【当日】オンライン：54人

申込者の職業（回答79人）

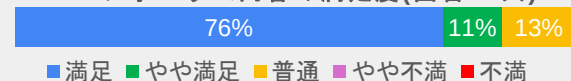


フォーラム実施後アンケート

フォーラムの理解度（回答22人）



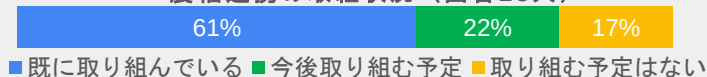
フォーラム内容の満足度(回答22人)



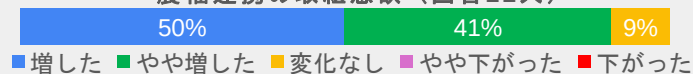
年齢（回答23人）



農福連携の取組状況（回答23人）



農福連携の取組意欲（回答22人）



農福連携マルシェ in 北海道

会場：札幌駅前通地下広場

出店数：9事業者

「農福連携」街頭認知度調査（回答123人）



農福連携 マルシェ in 東北

仙台開催

～農福連携魅力物語～

東北農福連携の魅力が満載!農業と福祉がつながって、人も地域も元気になる。そんな農福連携の現場で丁寧に育てられた農産物等と、それらを活用した美味しい加工品が東北各地から大集合!!9月22日10時より、AER(アエル)2階アトリウムにてマルシェを開催します!!

皆様のご来場を心よりお待ちしております。

会場 ▶ AER(アエル) 2階アトリウム
宮城県仙台市青葉区中央1丁目3-1

2023 9/22(金)
10:00～17:00

参加費 無料

農福連携フォーラムも同時開催!

SS30 第1・2会議室
宮城県仙台市青葉区中央4丁目6番1号にて13時～16時まで開催しています!!(裏面参照)

※写真はイメージです。

※マルシェの内容は、予告なく変更する場合がございます。

主催：株式会社農都共生総合研究所 後援：東北農政局

農福連携フォーラム in 東北

仙台開催

農福連携の魅力とは?

障害者等の就労の場の創出だけではなく、農業従事者の減少等の課題を抱える農業側にとっても、人手の確保や地域農業の維持・活性化等が期待でき、「農業」と「福祉」の双方の課題解決につながる取組として、様々な形で全国的な広がりを見えています。

農福連携の現場には、いきいきと農業に取り組む人々や、人と人とのつながり、そして丹精込めて育てられた農産物やそれらの付加価値を高めた加工品など、多彩な魅力があらわれています。この機会に是非、東北の地域資源を活用した農福連携のさまざまな取組について学んでみませんか。

農福連携フォーラム

開催形式

ハイブリッド開催
(現地 + オンライン参加)

会場 ▶ SS30 第1・2会議室
宮城県仙台市青葉区中央4丁目6番1号

農福連携マルシェも同時開催!

AER(アエル) 2階アトリウム
宮城県仙台市青葉区中央1丁目3-1
10時～17時まで開催しています!!(裏面参照)

応募期間

9月19日(火)まで

定員

現地参加：50名 オンライン参加：300名以内

お問い合わせ

株式会社農都共生総合研究所
noufuku@notosoken.jp

お申込はこちら
※メールいただいた後、2営業日以内に返信申し上げます。

農福連携の魅力ある取組の詳細は右のQRコードからご覧ください。

農福連携フォーラム

フォーラム内容

ノフクアワードに受賞・登録された方を中心に講演とパネルディスカッションを行います。

講演

「テーマ」
「未来を耕す共生の牧場」
～月山福祉会の農業事業と障がい者支援～

2022ノフクアワード
最優秀賞(農業分野)

社会福祉法人 月山福祉会 理事長 石川 一郎氏

パネルディスカッション

「テーマ」
東北の地域資源とつながりを活かした農福連携

2020ノフクアワード 優秀賞
社会福祉法人 松島のかぜ 生活支援員 一ノ瀬 和恵氏

大野自治協議会 泉川 達也氏

(コーディネーター)
宮城大学 佐々木秀之 准教授

※フォーラムの内容は、予告なく変更する場合がございます。

主催：株式会社農都共生総合研究所 後援：東北農政局

農福連携 魅力物語 MAP in 東北

「農福連携フォーラム&マルシェin東北」では、魅力ある様々な取組が大集合!東北のさまざまな地域で、農業を通じて障害者などが働く場所や居場所をつくっている取組をご紹介します。

農福連携の魅力ある取組の詳細は右のQRコードからご覧ください。

社会福祉法人 月山福祉会
所在地：山形県鶴岡市
農福連携フォーラムパネリスト
ホームページ

ア美 vineyard and winery
所在地：宮城県黒川郡大和町
農福連携マルシェ
ホームページ

中城建設 まちワクファーム
所在地：宮城県仙台市
農福連携マルシェ
ホームページ

一般社団法人 空
所在地：福島県郡山市
農福連携マルシェ
ホームページ

社会福祉法人 ころん
所在地：福島県西河原郡崎村
農福連携フォーラムパネリスト
ホームページ

障害者就労支援事業施設 NPOあきたアグリネット
所在地：秋田県
農福連携マルシェ
秋田県社会福祉センター 農福連携部 窓口

一般社団法人 松島のかぜ
所在地：宮城県宮城県松島町
農福連携フォーラムパネリスト
ホームページ

一般社団法人 イシノマキファーム
所在地：宮城県石巻市
農福連携マルシェ
ホームページ

一般社団法人 ステージパス
所在地：宮城県
農福連携マルシェ
ホームページ

社会福祉法人 みんなの輪
所在地：宮城県
農福連携マルシェ
ホームページ

※農福連携マルシェ出店者は予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。



左から川辺（農都）、佐々木氏、石川氏、小野崎氏、関根氏、一ノ瀬氏、泉川氏

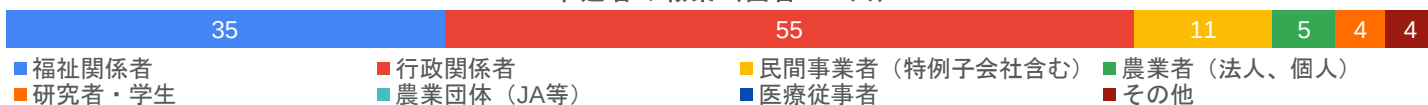
農福連携フォーラム in 東北

【会場】SS30 第1・2会議室（宮城県仙台市青葉区中央4丁目6番1号）

【日時】2023/9/22(金)13:00~16:00

【申込】現地：46人 オンライン：69人 【当日】オンライン：62人

申込者の職業（回答114人）



フォーラム実施後アンケート

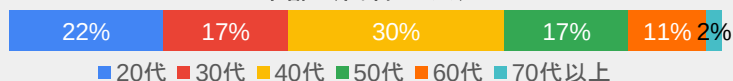
フォーラム理解度（回答43人）



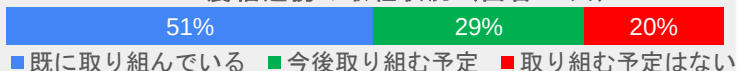
フォーラムの満足度（回答43人）



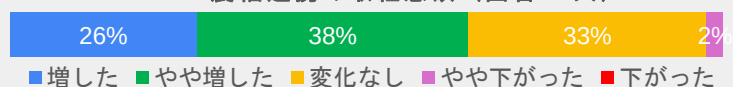
年齢（回答46人）



農福連携の取組状況（回答41人）



農福連携の取組意欲（回答42人）



農福連携マルシェ in 東北

会場：AER2 階アトリウム

出店数：10 事業者

『農福連携』街頭認知度調査（回答135人）





左から笠間氏、押田氏、菊岡氏、山本氏、林氏

農福連携フォーラム in 北陸

【会場】TKP 金沢新幹線口会議室 会議室 3A（石川県金沢市堀川新町 2-1 井門金沢ビル 3 階）

【日時】2023/10/12(木)13:00~16:00

【申込】現地：40 人 オンライン：69 人 【当日】オンライン：62 人

申込者の職業（回答104人）



フォーラム実施後アンケート

フォーラム理解度（回答48人）



フォーラム内容の満足度（回答48人）



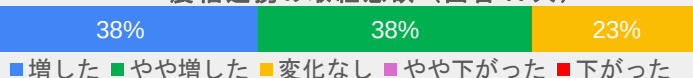
年齢（回答47人）



農福連携の取組状況（回答43人）



農福連携の取組意欲（回答47人）



農福連携マルシェ in 北陸

会場：金沢駅東もてなしドーム地下広場
出店数：9 事業者

『農福連携』街頭認知度調査（回答63人）



農福連携 マルシェ in 中国四国 岡山開催

2023 10/18(水) 13:00~16:00

参加費 無料

～農福連携魅力物語～

中国四国農福連携の魅力が満載!農業と福祉がつながって、人も地域も元気な。そんな農福連携の現場で丁寧に育てられた農産物等と、それらを活用した美味しい加工品が中国四国各地から大集合!!10月18日10時より、イオンモール岡山1階未来スクエアにてマルシェを開催します!!皆様のご来場を心よりお待ちしております。

場所▶ イオンモール岡山 1階 未来スクエア
岡山市北区下石井1丁目2番1号

農福連携フォーラムも同時開催!
第一セントラルビル3号館4階 ローズマリー
岡山県岡山市北区本町6にて13時~16時まで開催しています(要参加費)

※写真はイメージです。

※マルシェの内容は、予告なく変更する場合がございます。

主催：株式会社農都共生総合研究所

農福連携フォーラム in 中国四国 岡山開催

農林水産省 令和5年度農山漁村振興交付金事業

2023 10/18(水) 13:00~16:00

参加費 無料

農福連携の魅力とは?

障害者等の就労の場の創出だけでなく、農業従事者の減少等の課題を抱える農業側にとっても、人手の確保や地域農業の維持・活性化等が期待でき、「農業」と「福祉」の双方の課題解決につながる取組として、様々な形で全国的な広がりを見せています。

農福連携の現場には、いきいきと農業に取り組み人々や、人と人のつながり、そして丹精込めて育てられた農産物やそれらの付加価値を高める加工品など、多彩な魅力があふれています。この機会に是非、中国四国の地域資源を活用した農福連携のさまざまな取組について学んでみませんか。

開催形式
ハイブリッド開催 (現地参加 + オンライン参加)
現地▶ 第一セントラルビル3号館4階 ローズマリー
岡山県岡山市北区本町6

農福連携マルシェも同時開催!
イオンモール岡山 1階 未来スクエア
岡山市北区下石井1丁目2番1号
10時~17時まで開催しています(要参加費)

応募期間
9月27日(水)から10月16日(月)まで

定員
現地参加: 50名 オンライン参加: 300名以内
※オンラインは、Zoom利用となります。

お問い合わせ
株式会社農都共生総合研究所
noufuku@notosoken.jp
※メールアドレスは2次募集以降は変更いたします。

お申込はこちら

主催：株式会社農都共生総合研究所

農福連携 魅力物語 MAP in 中国四国

「農福連携フォーラム&マルシェin中国四国」では、魅力ある様々な取組が大集合!中国四国のさまざまな地域で、農業を通して障害者などが働く場所や居場所をつくる取組をご紹介します。

農福連携の魅力ある取組の詳細は右のQRコードからご覧ください。

社会福祉法人 E.G.F
所在地：山口県萩市
農福連携フォーラムパネリスト
ノフク・アワード2022優秀賞、作業受託にともなう、原材料生産を行うことで生産者となることを重視し、農業の持続化に貢献する農福連携を実現している。

社会医療法人 正光会 さんざん牧場
所在地：島根県益田市
農福連携フォーラムパネリスト 農福連携マルシェ
ノフク・アワード2021チャレンジ賞受賞、20aのハウスで一般野菜の他、ピーズ、食用花等の地域のレストランに向けた野菜や、バタフライピー等の珍しい作物を特産化を目指して栽培している。

ノームの糸車
所在地：鳥取県西伯郡南部町
農福連携マルシェ
自然豊かな環境で地域のフルーツを使った製品を製造販売を行っている就労継続支援B型事業所。生産者の方々にいっしょに「青いバリエーション」をテーマに、数々のイベントを企画。羊毛製品の製造販売、羊毛フェルト出張講習、羊毛フェルト、ビーズアクセサリーなどの体験事業、バーガーやシロップの製造販売も行っている。

株式会社 HAPPY FARM plus R
所在地：岡山県真庭市
農福連携マルシェ
野菜を作り、育て、食べることで、おいしさを通じてHAPPYを届けることを目指し、野菜苗やきゅうり、味野菜、ミニパプリカ等、新鮮な採れたて野菜を販売している。

社会福祉法人 洋々会
所在地：香川県高松市
農福連携マルシェ
老人福祉・障がい福祉・子育て支援に数多くの社会福祉事業を行い、これらを地域に密着して行なうことで、地域福祉の向上を目指す活動に取り組んでいる。

特定非営利活動法人 山の薬剤師たち
所在地：徳島県阿波市
農福連携マルシェ
地産から一定の高さに高い地産地消に種や苗を植え、自動灌水によって液肥と水を供給し、植物を栽培する床式立体栽培、高齢者や障がい者の参加しやすい農法の実践により、農福連携の普及に取り組んでいる。

一般社団法人 green sight
所在地：愛媛県伊予市
農福連携マルシェ
農業や創作、カフェでの料理、接客、シニア世代等の施設外就労、デザインや商品開発等の幅広い就労機会をもち、農福連携の現場として、県内外の企業や学校、法人等の受け入れを行っている。

特定非営利活動法人 とくしま障がい者就労支援協議会
所在地：徳島県徳島市
農福連携マルシェ
徳島県内の就労移行支援事業所・就労継続支援A型・B型事業所・地域活動支援センターなどでつらつらと活動している団体であり、障がい者がいきいきと働く機会を創出し活動を行っている。

一般社団法人 こうち絆ファーム
所在地：高知県安芸市
農福連携マルシェ
当事者の自立を目指すことを目標に、行政や関係団体と連携し、最低賃金で働ける人全ての人や生き生きと働く人々をサポートし、ナスやオクラの栽培を行っている。

安芸市農福連携研究会
所在地：高知県安芸市
農福連携フォーラムパネリスト 農福連携マルシェ Facebook
ノフク・アワード2021審査員特別賞受賞、講演会・研修会、視察研修、農業体験、農業就労支援等の支援事業を行っている。

はーとふる川内株式会社
所在地：徳島県阿波市
農福連携マルシェ
ノーマライゼーションの実現を目指し「ハウスでミミド」の水耕栽培を行っている。「くまざわAG」農産物「認証アボカド」ノフク・アワード2021認定を取得し、安心して食べる環境整備にも取り組んでいる。

※農福連携マルシェ出店者は予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。



左から農都（川辺）、中本氏、公文氏、野稻氏、阿部氏、南氏

農福連携フォーラム in 中国四国

【会場】第一セントラルビル 3 号館 4F ローズマリー
（岡山県岡山市北区本町 6 番 30 号 第一セントラルビル 3 号館 4F）

【日時】2023/10/18(水)13:00~16:00

【申込】現地：24 人 オンライン：55 人【当日】オンライン：54 人

申込者の職業（回答79人）



フォーラム実施後アンケート

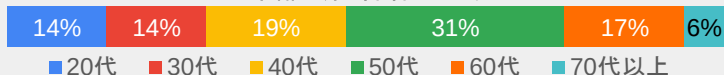
フォーラム理解度（回答37人）



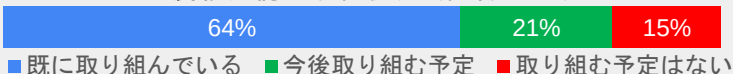
フォーラム内容の満足度（回答36人）



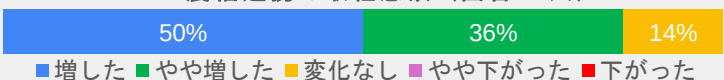
年齢（回答者36人）



農福連携の取組状況（回答33人）



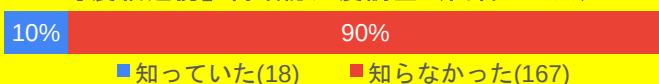
農福連携の取組意欲（回答36人）



農福連携マルシェ in 中国四国

会場：イオンモール岡山 未来スクエア
出店数：11 事業者

『農福連携』街頭認知度調査（回答185人）



農福連携 マルシェ in 近畿 京都開催

2023 10/26(木) 10:00~17:00

参加費 無料

～農福連携魅力物語～

近畿農福連携の魅力が満載! 農業と福祉がつながって、人も地域も元気になる。そんな農福連携の現場で丁寧に育てられた農産物等と、それらを活用した美味い加工品が近畿各地から大集合!! 10月26日10時より、イオンモールKYOTO Sakura館1階センターコートにてマルシェを開催します!!! 皆様のご来場を心よりお待ちしております。

会場 ▶ イオンモールKYOTO Sakura館1階センターコート
京都府京都市南区西九条鳥居口1番地

1階フロアマップ

参加事業者と商品(予定)

- 株式会社 いずみエコロジーファーム (大塚市)
小松菜、きゅうり、ほうれん草、春菊 ほか
- さんさん山城 (社会福祉法人 京都聴覚言語障害者福祉協会) (京都市)
京都田辺漬子、漬物大福、漬物クッキー、
「漬物(京漬物)」、手揉み宇治抹茶「漬物」、
京甘利7味 ほか
- 一般社団法人 柳農園 たすきファーム (兵庫県)
黒枝豆、ベークル、甘酒、野菜 ほか
- 株式会社 NICOJAPAN 就労継続支援B型 ニコプレイス (大塚市)
米、漬物、ジャム、ケーキ(ベイクド)、
ドリンク、ヨーグルト ほか
- 株式会社 しんやさい (京都市)
旬の野菜各種、みぞれ鍋つゆ、
金時にんじんスムージー ほか
- 社会福祉法人 京都ライフサポート協会 (京都市)
焼き菓子(シュロロイズ、フィナンシェ、
パウンドケーキ、パンなど)

※写真はイメージです。

※マルシェの内容は、予告なく変更する場合がございます。

主催：株式会社農都共生総合研究所

農福連携 フォーラム in 近畿 京都開催

2023 10/26(木) 13:00~16:00

参加費 無料

農福連携の魅力とは?

障害者等の就労の場の創出だけでなく、農業従事者の減少等の課題を抱える農業側にとっても、人手の確保や地域農業の維持・活性化等が期待でき、「農業」と「福祉」の双方の課題解決につながる取組として、様々な形で全国的な広がりをみせています。

農福連携の現場には、いきいきと農業に取り組む人々や、人と人とのつながり、そして丹精込めて育てられた農産物やそれらの付加価値を高める加工品など、多彩な魅力があらわれています。この機会に是非、近畿の地域資源を活用した農福連携のさまざまな取組について学んでみましょう。

農福連携フォーラム

開催形式
ハイブリッド開催 (現地参加 + オンライン参加)

会場 ▶ TKPガーデンシティ京都タワーホテル
京都府京都市下京区東小路721-1

農福連携マルシェも同時開催!

イオンモールKYOTO Sakura館1階センターコート
京都府京都市南区西九条鳥居口1番地
10時~17時まで開催しています! (裏面参照!)

応募期間
10月23日(月)まで

定員
現地参加: 50名 オンライン参加: 300名以内
※オンラインは、Zoom利用となります。

お問い合わせ
株式会社農都共生総合研究所
noufuku@notosoken.jp
※メールは10月23日(月)までに返信申し上げます。

お申込はこちら

フォーラム内容

ノフクアワードに受賞・登壇された方を中心に講演とパネルディスカッションを行います。

講演

[テーマ] いずみ市民と生産で結ぶ、いずみエコロジーファームの農福連携コブモデル

ノフクアワード2021 優秀賞
株式会社 いずみエコロジーファーム
代表取締役社長 神崎 裕也氏

[テーマ] 地域と繋がりを、ふだんのくらしをしあわせに。さくらテラスの農福連携

医療法人 弘英会 さくらテラス
デイサービス・グループホーム
管理者 小室 雅紀氏

パネルディスカッション

[テーマ] 近畿の地域資源とつながりを活かした農福連携

ノフクアワード2022 フレッシュ賞
合同会社 三休 施設長 世古 朝綱氏

ノフクアワード2021 チャレンジ賞
社会福祉法人 太陽福祉会
副の花井 孝典氏 農福連携担当 柏木 克之氏

・NPO法人 緑活 代表 杉田 健一氏
(コーディネーター)
神戸学院大学 菊川 裕幸 講師

※フォーラムの内容は、予告なく変更する場合がございます。

*登壇者の魅力ある取組の詳細は右のQRコードからご覧ください。

主催：株式会社農都共生総合研究所

農福連携 魅力物語 MAP in 近畿

『農福連携フォーラム&マルシェin近畿』では、魅力ある様々な取組が大集合! 近畿のさまざまな地域で、農業を通じて障害者などが働く場所や居場所をつづけている取組をご紹介します。

農福連携の魅力ある取組の詳細は右の二次元コードからご覧ください。

一般社団法人 柳農園 たすきファーム
所在地: 兵庫県丹波篠山市

農福連携マルシェ
地域のみなさんから育てられた野菜や、漬物や豆のすり、ミニトマト等を栽培するほか、多くの人と交流することを目的として、地域産、国産にこだわった農材やベークルを販売しています。

Instagram

医療法人 弘英会 さくらテラス
デイサービス・グループホーム
所在地: 滋賀県栗東市

農福連携フォーラム講演者
自立・自給支援に力を入れ、地域の事業所や企業と連携して農作業の実践・販売・加工等を行うことで、地域や社会との繋がりを活かしている。

NPO法人 緑活
所在地: 滋賀県栗東市

農福連携フォーラムパネリスト
「おみやげ」で無農薬・無肥料・無除草剤による自然栽培の野菜「いちじく」にこだわって栽培し、これを「オモヤキチン」でランチやケーキに加工して販売している。

株式会社 しんやさい
所在地: 京都市京都市

農福連携マルシェ
九条おざや製菓院大塚、金時人等々の京野菜を中心とした多品目の 野菜を栽培している。また多様な人材を雇用、活躍しており、職場体験実習等も多数受け入れている。

さんさん山城 (社会福祉法人 京都聴覚言語障害者福祉協会)
所在地: 京都市京都市

農福連携マルシェ
ノフクアワード2021グランプリ受賞、聴覚障害者が集い、宇治茶、京都えびいも、万願寺とうがらし、京都田辺漬子等の地域特産物の栽培や加工食品製造、コミュニティカフェの運営を行っている。

社会福祉法人 京都ライフサポート協会
所在地: 京都市京都市

農福連携マルシェ
知的障がいのある方が地域の中で「おみやげ」に、あたりまえに暮らし、はたらくことをサポートしている法人です。京都市南部の農地で、無農薬にこだわった、旬の野菜、菊などの栽培に取り組んでいます。

三休合同会社
所在地: 京都市京都市

農福連携フォーラムパネリスト
ノフクアワード2022フレッシュ賞受賞、農業を中心に障害者が働く就労継続支援B型事業所で、万願寺とうがらしやトウモロコシを中心に有機栽培での栽培を行っている。

株式会社 NICOJAPAN 就労継続支援B型 ニコプレイス
所在地: 大塚市大塚市

農福連携マルシェ
野菜や米の産地から産地までの一連の作業や、野菜のバリエーションの加工・販売、その他にも、障害者や子ども、仕入れやアクセスサービス、接客等を幅広く行っている。

株式会社 いずみエコロジーファーム
所在地: 大塚市大塚市

農福連携フォーラム講演者 農福連携マルシェ
ノフクアワード2021優秀賞受賞、小松菜、きゅうり、ほうれん草、春菊の生産を行い、障害者が関わった生産方法でノフクアワード2021を受賞している。

社会福祉法人 太陽福祉会
所在地: 和歌山和歌山市

農福連携フォーラムパネリスト
ノフクアワード2021チャレンジ賞受賞、農産物を通じて、地域との連携に取り組んでいる。

※農福連携マルシェ出店者は予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。



左から菊川氏、神崎氏、小室氏、世古口氏、柏木氏、杉田氏

農福連携フォーラム in 近畿

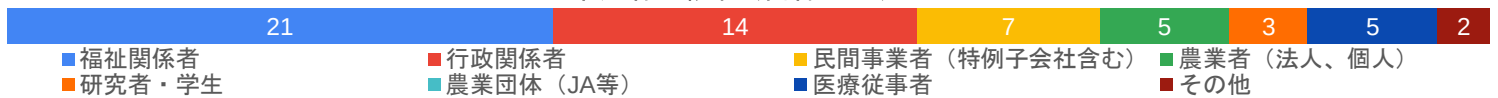
【会場】TKP ガーデンシティ 京都タワーホテル（京都府京都市下京区東塩小路町 721-1 9 階 飛雲）

【日時】2023/10/26(木)13:00~16:00

【申込】現地：16 人 オンライン：34 人

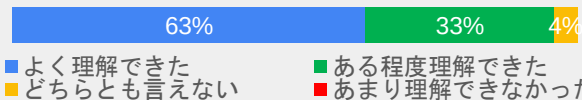
【当日】オンライン：47 人

申込者の職業（回答57人）



フォーラム実施後アンケート

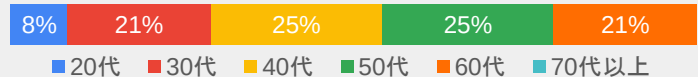
フォーラム理解度（回答24人）



フォーラム内容の満足度（回答24人）



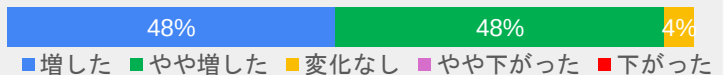
年齢（回答者24人）



農福連携の取組状況（回答21人）



農福連携の取組意欲（回答23人）



農福連携マルシェ in 近畿

会場：イオンモール KYOTO

出店数：6 事業者

『農福連携』街頭認知度調査（回答111人）



農福連携マルシェ in 東海

名古屋開催

2023 11/8 (水) 10:00~17:00

～農福連携魅力物語～

東海地域の農福連携の魅力が満載! 農業と福祉がつながって、人も地域も元気になる。そんな農福連携の現場で丁寧に育てられた農産物等と、それらを活用した美味しい加工品が東海各地から大集合!! 11月8日10時より、オアシス21にてマルシェを開催します!!! 皆様のご来場を心よりお待ちしております。

※新設により変更になる場合がございます。

オアシス21 愛知県名古屋市中区東区東1丁目11-1

参加事業者と商品(予定)

- 株式会社 コトモファーム (愛知県) 米粉のバウムクーヘン ほか
- 株式会社 アグリトリオ (愛知県) 超濃厚いちごミルクの素、濃厚いちごミルクの素、日本ミッドバチの濃厚ハチミツ
- 特定非営利活動法人 クオアレ (愛知県) 豊後イシゴのフルーツジャム、田原市産花きのアレンジ ほか
- 就労継続支援事業所 それいゆ (岐阜県) 美濃産平手(干し手・焼き手)、黒にんにく、やさしがり(スナック菓子) ほか
- 株式会社 JAぎふ はっぴいまるけ (岐阜県) 主な名産品、野菜、ハイスカイスター、特別栽培米ハジモ(新米) ほか
- 社会福祉法人 あさみどりの会 れいんほうワークス (愛知県) さつまいも(紅はるか)、利用者の方たちを活用したオリジナルデザインシャツやバッグ、スウェーデン製雑穀 ほか
- 株式会社 マザーズリヴ (愛知県) プリン(プレーン・塩キャラメル・抹茶いちご・栗・みかん)、フィナンシェ(プレーン・塩)、パウンドケーキ(ブルーベリー・みかん・栗) ほか
- 株式会社 TFF 就労継続支援A型 ひなたぼっこ園 (岐阜県) 栗床雑穀、乾雑穀、栗にんにく、旬の野菜 ほか
- 三菜果(三和油化工業株式会社) (愛知県) エディブルフラワー、ミニトマト、お菓子
- 社会福祉法人 無門福祉会 (愛知県) 米、雑穀(有機)、季節の野菜(未定)、農産物加工品(カレー、せんべい、ジャム等) ほか
- 就労継続支援A型 手のひら (愛知県) 露地野菜 ほか

※マルシェの内容は、予告なく変更になる場合がございます。

主催：株式会社農福共生総合研究所

農福連携フォーラム in 東海

名古屋開催

2023 11/8 (水) 13:00~16:00

参加費 無料

農福連携の魅力とは？

障害者等の就労の場創出だけでなく、農業従事者の減少等の課題を抱える農業側にとっても、人手の確保や地域農業の維持・活性化等が期待でき、「農業」と「福祉」の双方の課題解決につながる取組として、様々な形で全国的な広がりを生んでいます。

農福連携の現場には、いきいきと農業に取り組む人々や、人と人とのつながり、そして丹精込めて育てられた農産物やそれらの付加価値を高める加工品など、多彩な魅力がふたれています。この機会に是非、東海の地域資源を活用した農福連携のさまざまな取組について学んでみませんか。

農福連携フォーラム

開催形式
ハイブリッド開催 (現地参加 + オンライン参加)

現地参加：名古屋三交ビル ツディコ名駅東カンファレンスセンター Room D
愛知県名古屋市中村区名駅3丁目21-7

名古屋三交ビル ツディコ名駅東カンファレンスセンター

農福連携マルシェも同時開催!

オアシス21 銀河の広場
愛知県名古屋市中区東区東1丁目11-1
10時～17時まで開催しています(農産物参照)

応募期間
11月6日(月)まで

定員
現地参加：50名 オンライン参加：300名以内
※オンラインは、Zoom利用となります。

お問い合わせ
株式会社農福共生総合研究所
noufuku@notosoken.jp
※メールは、お申し込み後2営業日以内にご返信申し上げます。

お申込はこちら

主催：株式会社農福共生総合研究所

フォーラム内容

ノフクアワードに受賞・登壇された方を中心に講演とパネルディスカッションを行います。

講演
[テーマ] 朋友の組織づくりと地域連携 ～人を結ぶ農福連携とは～

ノフクアワード2022 準グランプリ「人を結ぶ」
社会福祉法人 朋友 理事長 伊藤 良一氏

パネルディスカッション
[テーマ] 東海の地域資源とつながりを活かした農福連携

ノフクアワード2022 優秀賞
株式会社DAI 専務取締役 中島 望氏

ノフクアワード2021 フレッシュ賞
株式会社JAぎふはっぴいまるけ 統括部長 高橋 玲司氏

ノフクアワード2022 フレッシュ賞
株式会社コトモファーム 代表取締役 齋藤 秀一氏

(コーディネーター)
静岡県立静岡経済専門大学 講師 太田 智氏
※フォーラムの内容は、予告なく変更になる場合がございます。

※登壇者の能力ある取組の詳細は右のQRコードからご覧ください。

農福連携 魅力物語 MAP in 東海

『農福連携フォーラム&マルシェin東海』では、魅力ある様々な取組が大集合! 東海のさまざまな地域で、農業を通じて障害者などが働く場所や居場所をつくっている取組をご紹介します。

農福連携の魅力ある取組の詳細は下の二次元コードからご覧ください。

株式会社 DAI 就労継続支援事業所 それいゆ
所在地：岐阜県関市

農福連携フォーラムパネリスト 農福連携マルシェ ホームページ

ノフクアワード2022優秀賞受賞、岐阜県の特産品「肉内」などの栽培をJAと連携して行うことで地域の特産品を守り、福祉を担った地域づくりを行っている。

株式会社 TFF 就労継続支援A型 ひなたぼっこ園
所在地：岐阜県山県市

農福連携マルシェ ホームページ

雑穀の農産物栽培のほか、利用者と果実、にんにく、旬の野菜等の栽培を行っており、マルシェへの参加による販売等も行っている。

株式会社 JAぎふ はっぴいまるけ
所在地：岐阜県岐阜市

農福連携フォーラムパネリスト 農福連携マルシェ ホームページ

ノフクアワード2021フレッシュ賞受賞、単位JAで全国初となる特別子会社として新たなモデルを構築し、農作業や作業補助、味噌の製造や栽培等、様々な業務を行っている。

就労継続支援A型 手のひら
所在地：愛知県稲沢市

農福連携マルシェ ホームページ

敷地内や近隣にある畑やハウスで季節に応じた野菜を露地で栽培している。栽培期間中は農業不使用・化学肥料不使用・除草剤不使用でこだわりの野菜作りを行っている。

社会福祉法人 あさみどりの会 れいんほうワークス
所在地：愛知県愛西市

農福連携マルシェ ホームページ

自然栽培でつみたても等の様々な作物を栽培しているほか、エンジューホースとともりんごの栽培等の販売や、スウェーデン製雑穀及び利便性の高い商品や、再生ダンボールを使った商品作りを行っている。

株式会社 コトモファーム
所在地：愛知県山県市

農福連携フォーラムパネリスト 農福連携マルシェ ホームページ

ノフクアワード2022フレッシュ賞受賞、自動車用100%の天然繊維「バイオ繊維」の加工品の製造販売を行うなど、6次産業化をベースとした農福連携に取り組んでいる。

社会福祉法人 無門福祉会
所在地：愛知県豊田市

農福連携マルシェ ホームページ

当初に障がいのある方と一緒に、農業や肥料を使用しない自然栽培という手法で、地域の休耕地を活用した農業に取り組んでいる。地元の農家さんや企業との連携やボランティア、小学生の子供達など、様々な地域の方と繋がりができ、みんなで楽しく活動を行っている。

三菜果(三和油化工業株式会社)
所在地：愛知県刈谷市

農福連携マルシェ ホームページ

刈谷市にある化学製品メーカー、農産物のリユース・リサイクルと環境にやさしい「製品づくり」を目標とし、環境負荷の削減や資源の有効活用に加え、地域の福祉事業や農産物と連携して立ち上げた三和農産物ブランド「三菜果」を通して、女性や障がいを持つ人等の雇用促進と地域貢献に取り組んでいる。

株式会社 マザーズリヴ
所在地：愛知県知多郡

農福連携マルシェ ホームページ

常備品を使用し、餅は全て自産のものを使用し、すべて店内の工場でひとつひとつ丁寧に手作りした新鮮な「チャーシューパン」やフィナンシェ、パウンドケーキ等の販売を行っている。

特定非営利活動法人 クオアレ
所在地：愛知県豊橋市

農福連携マルシェ ホームページ

障害者・障害児、高齢者、生活困窮者、難病者、生きづらさを感じている方々が可能な限り自立した生活が送れるよう手助けや社会参加の機会を創出し、社会を築く事を目的とした取組を行っている。

株式会社 アグリトリオ
所在地：愛知県豊橋市

農福連携マルシェ ホームページ

個人と農業を繋ぎ、働きたい個人と人手不足に悩む農業をマッチングする農Howや、福祉施設の工賃UPや生きがい等の創出と人手不足に悩む農業をマッチングする農Care等の取組を行っている。

社会福祉法人 朋友
所在地：三河県錦町

農福連携フォーラム講演者 農福連携マルシェ ホームページ

ノフクアワード2022準グランプリ「人を結ぶ」受賞、農業のあらゆる飲食事業にも取り組むことで、障害者が作業を選択することと可能とし、作業効率の向上や高収入を実現している。

※農福連携マルシェ出店者は予告なく変更になる場合がありますのでご了承ください。



左から太田氏、高橋氏、中島氏、斎藤氏、伊藤氏

農福連携フォーラム in 東海

【会場】名古屋三交ビル ツドイコ名駅東カンファレンスセンター
(愛知県名古屋市中村区名駅3丁目21-7)

【日時】2023/11/8(水)13:00~16:00

【申込】現地：13人 オンライン：64人 【当日】オンライン：68人

申込者の職業（回答76人）



フォーラム実施後アンケート

フォーラム理解度（回答22人）



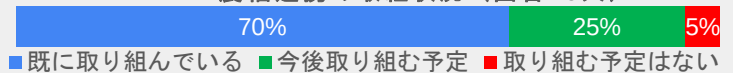
フォーラム内容の満足度（回答22人）



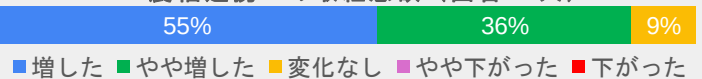
年齢（回答24人）



農福連携の取組状況（回答20人）



農福連携への取組意欲（回答22人）

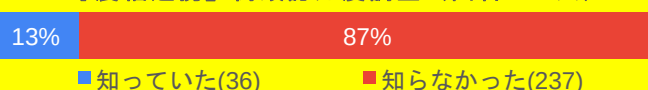


農福連携マルシェ in 東海

会場：オアシス 21

出店数：11 事業者

『農福連携』街頭認知度調査（回答237人）



農福連携 マルシェ in 九州

～農福連携魅力物語～

2023 12/7 (木) 10:00～17:00

参加費 無料

農福連携の魅力が満載! 農業と福祉がつながって、人も地域も元気になる。そんな農福連携の現場で丁寧に育てられた農産物等と、それらを活用した美味しい加工品が九州各地から大集合!! 12月7日10時より、長崎県1階アーケードにてマルシェを開催します!! 皆様のご来場を心よりお待ちしております。

場所 ▶ 長崎県1階アーケード 長崎市浜町7番11号

農福連携フォーラムも同時開催!

出島メッセ長崎102 長崎県長崎市上町4-1 13時～16時まで開催しています! (要参加費)

参加事業者と商品(予定)

- 1 社会福祉法人 南高愛陽会 (長崎県) アスパラガス茶、乾麺、チョコレート、ポップコーン ほか
- 2 社会福祉法人 出島福祉村 (長崎県) びわ茶、味噌、ジャム、クッキー、マフィン ほか
- 3 大隅半島 ノウフクコンソーシアム (鹿児島県) お茶、ハーブティー、スイーツ ほか
- 4 株式会社 誠見 (鹿児島県) 米、しいたけ、温州みかん ほか
- 5 南九州農福連携コンソーシアム (宮崎県・鹿児島県・熊本県) ミニトマト、スティックセニョール、ピーマン、ねぎ、赤唐辛子 ほか
- 6 熊本県農福連携協議会 (熊本県) ミニトマト、かぼちゃ、スイスチヤード、わかし、みかん ほか
- 7 NPO法人 熊本福祉会 (熊本県) いんげん、じゃがいも、ピーマン、かぼちゃ、スイスチヤード ほか
- 8 社会福祉法人 ハイジ福祉会 (福岡県) ミディマト、ガーベラ ほか
- 9 福岡少年院 (福岡県) 旬の野菜

※マルシェの内容は、予告なく変更する場合がございます。

主催：株式会社 農福共生総合研究所

農福連携フォーラム in 九州

2023 12/7 (木) 13:00～16:00

参加費 無料

農福連携の魅力とは?

障害者等の就労の場の創出だけでなく、農業従事者の減少等の課題を抱える農業側にとっても、人手の確保や地域農業の維持・活性化等が期待でき、「農業」と「福祉」の双方の課題解決につながる取組として、様々な形で全国的な広がりを見せています。

農福連携の現場には、いきいきと農業に取り組む人々や、人と人とのつながり、そして円滑に育てられた農産物やそれらの付加価値を高める加工品など、多彩な魅力があります。この機会に是非、九州の地域資源を活用した農福連携のさまざまな取組について学んでみませんか。

農福連携フォーラム

開催形式 ▶ ハイブリッド開催 (現地参加 + オンライン参加)

現地 ▶ 出島メッセ長崎102 長崎県長崎市上町4-1

出島メッセ長崎

農福連携マルシェも同時開催!

長崎県1階アーケード 長崎市浜町7番11号 10時～17時まで開催しています! (要参加費)

応答期間 ▶ 12月4日(月)まで

定員 ▶ 現地参加：50名 オンライン参加：300名以内 ※オンラインは、Zoom利用となります。

お問い合わせ ▶ 株式会社 農福共生総合研究所 noufuku@notosoken.jp ※メールは、12月4日(月)15時までに送信をお願いします。

お申込はこちら ▶

農福連携フォーラム内容

講演 ▶ 南高愛陽会が問う真の「共生社会」とは ～未来を創す農福連携の実践～

講演者 ▶ ノウフク・アワード2022 審査員特別賞(人を創す) 社会福祉法人 南高愛陽会 管理 宇野 光央氏

パネルディスカッション ▶ 九州の地域資源とつながりを活かした農福連携

講演者 ▶ ノウフク・アワード2022 優秀賞 社会福祉法人 出島福祉村 理事長 池田 賢一氏

講演者 ▶ ノウフク・アワード2022 チャンピオン賞 大隅半島・ノウフクコンソーシアム 理事 今村 和也氏 結城 康文氏 (コーディネーター) 九州大学 准教授 渡部 岳陽氏

法務省からの情報共有 ▶ 法務省福岡矯正管区更生支援企画課 課長 福原 健吾氏 「再犯防止のための出所者等の居場所と出資づくり ～農福連携の活用～」 ※フォーラムの内容は、予告なく変更する場合がございます。

※登壇者の魅力ある取組の詳細は右の二次元コードからご覧ください。

主催：株式会社 農福共生総合研究所

農福連携 魅力物語 MAP in 九州

「農福連携フォーラム&マルシェin九州」では、魅力ある様々な取組が大集合! 九州のさまざまな地域で、農業を通じて障害者などが働く場所や居場所をつくっている取組をご紹介します。

農福連携の魅力ある取組の詳細は右の二次元バーコードからご覧ください。

福岡少年院

所在地：福岡県福岡市

農福連携マルシェ

福岡市南区にある、おおむね12歳から20歳までの若者の若者少年院を運営し、矯正教育や社会復帰支援等を行っている少年院。職業指導の一環として、院内の農園で農作物を作っている。

社会福祉法人 ハイジ福祉会

所在地：福岡県八女市

農福連携マルシェ

地元JAの花き部会傘下にある8女FCガーベラ部と博多シンデレラクラブと外部委託契約を行い、ガーベラとユリのパッケージ作業を行っている。また、耕作放棄地を購入し、法人としてJAの組合員資格を取得、ガーベラ・ミニトマトの生産を始めている。

NPO法人 熊本福祉会

所在地：熊本県熊本市

農福連携マルシェ

遠征活動で働くことで力を発揮して、誰もが対等に働くことのできる職場づくりを目指して、生産の出荷準備や大豆畑の管理、オクラの収穫等、様々な農作業を行っている。

南九州農福連携コンソーシアム

所在地：宮崎県・鹿児島県・熊本県

農福連携マルシェ

今年の1月8日に設立しました。熊本・鹿児島・宮崎の南九州3県から全国に誇りがかけ、若者に誇りが持てる就労機会の増加ややりがいにつながる農福連携の推進に貢献していきたいと思っています。

熊本県農福連携協議会

所在地：熊本県

農福連携マルシェ

熊本県農福連携協議会は今年の9月8日に設立しました。農村の多面的資源と農業の多様性及び多様な人材が輝き、福祉の発展できる共生社会を実現し熊本県域での農業と福祉を結びつける地域ネットワークづくりに貢献していきたいと思っています。

社会福祉法人 南高愛陽会

所在地：長崎県長崎市

農福連携フォーラム・マルシェ

ノウフク・アワード2020審査員特別賞(人を創す)受賞。独自の農業事業に加え、外部の農業法人や市民団体と連携し、やまの餅や、味噌、ジャム、クッキー、マフィン ほか、農産物や、地域に根をおろした多角的な農業を展開している。

社会福祉法人 出島福祉村

所在地：長崎県長崎市

農福連携フォーラム・マルシェ

ノウフク・アワード2022優秀賞受賞。びわ茶の製造等、自農園や地域で生産される農産物を利用した原料の加工品の開発・製造や、カフェレストラン・直売所の運営等を行っている。

株式会社 誠見

所在地：鹿児島県鹿児島市

農福連携マルシェ

障害者就労センターみなし(A型)と就労支援センターリーフ(5型)では「できる可能性への挑戦」を理念に障害者を中心とした公共事業や自給生産された作物を用いたカフェを展開している。

大隅半島ノウフクコンソーシアム

所在地：鹿児島県大隅半島地域

農福連携フォーラム・マルシェ

ノウフク・アワード2022チャンピオン賞受賞。大隅半島農福連携を推進している団体をつくる地域課題解決プラットフォームの役割を果たし、様々なプロジェクトを運営。大隅半島全体で農福連携を推進する団体を目指している。

社会福祉法人 みやこ福祉会

所在地：沖縄県宮古島市

農福連携フォーラム・マルシェ

ノウフク・アワード2022チャンピオン賞受賞。通年で農作物の収穫販売を行っている。離島における農業の安全生産体制の確立に加え、障害者の安定雇用を実現している。

※農福連携マルシェ出店者は予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。



左から、渡部氏、宇野氏、池田氏、伊志嶺氏、今村氏、結城氏

農福連携フォーラム in 九州

【会場】出島メッセ長崎 102（長崎県長崎市尾上町4-1）

【日時】2023/12/7(木)13:00~16:00

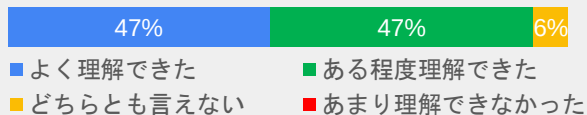
【申込】現地：23人 オンライン：83人 【当日】現地：26人 オンライン：60人

申込者の職業（回答106人）



フォーラム実施後アンケート

フォーラム理解度（回答32人）



フォーラム内容の満足度（回答32人）



年齢（回答32人）



農福連携の取組状況（回答32人）



農福連携の取組意欲（回答31人）



農福連携マルシェ in 九州

会場：長崎浜屋 1 階アーケード

出店数：9 事業者

『農福連携』街頭認知度調査（回答129人）



知っていた(27) 知らなかった(102)



左から、町田氏、小淵氏、石橋氏、山崎氏、照沼氏

農福連携フォーラム in 関東

【会場】KITTE4 階 JP タワーホール&カンファレンス
(東京都千代田区丸の内二丁目7番2号)

【日時】2024/1/30(火)13:00~16:30

【申込】現地：74人 オンライン：118人【当日】オンライン：86人

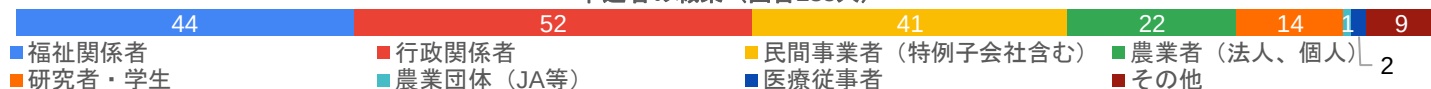


皆川氏 (特別講演)



高橋政務官 (挨拶)

申込者の職業 (回答185人)



フォーラム実施後アンケート

フォーラム理解度 (回答数50人)



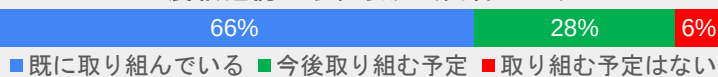
フォーラム内容満足度 (回答49人)



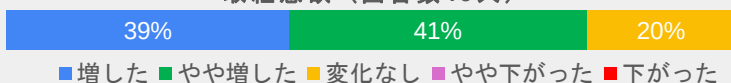
年齢 (回答50人)



農福連携の取組状況 (回答47人)



取組意欲 (回答数49人)



農福連携マルシェ in 関東

会場：KITTE 地下1階

東京シティアイパフォーマンスゾーン

出店数：16事業者

『農福連携』街頭認知度調査 (回答361人)



農福連携技術支援者の集い

～農福連携技術支援者と農福連携研究者のクロストーク～

2023年12月22日(金) 13:00~16:00

千葉大学教授 吉田 行郷

兵庫県立大学教授 豊田 正博



 福祉事業者 社会福祉法人ゆずりは会エール 管理者補佐・職業指導員 峯岸 勝(4期生)	 農業者 株式会社ボタジェ ハーブ農園ベザン 代表取締役社長 澤邊 友彦(1期生)	 企業 帝人ソレイユ株式会社 取締役社長補佐 鈴木 崇之(1期生)	 行政 佐賀県農林水産部農業経営課 農福連携コーディネーター 藤戸 小百合(6期生)
---	---	--	--



農福連携 技術支援者

NPO法人
たがやす理事／
大隅半島
ノウフクコンソーシアム
プロジェクト
マネージャー／
ノウフクJAS検査員・
ASIAGAP指導員

進行役 天野 雄一郎 (2期生)



ファシリテーター(総司会)
農都共生総合研究所 川辺 亮

お申し込みはこちらから



<https://forms.gle/kz43Cye8HE27pVAJ7>
mail : noufuku@notosoken.jp

場所

千葉大学松戸キャンパス
100周年記念
戸定ヶ丘ホール
(現地とオンライン併用による開催)



参加者

会場参加申込定員: 50名程度
オンライン参加定員: 100名程度

内容

- 1 吉田教授・豊田教授の対談
(情報提供: 吉田教授「マッピングから見た農福連携」、豊田教授「福祉事業所作業分析による難易度一覧表の実証へ向けて」)
- 2 農林水産省 農福連携推進室からの
情報提供等
- 3 農福連携技術支援者の今①
(福祉事業所の視点から)
- 4 農福連携技術支援者の今②
(農業者の視点から)
- 5 農福連携技術支援者の今③
(企業の視点から)
- 6 農福連携技術支援者の今④
(コーディネーターの視点から)
- 7 パネルディスカッション
- 8 質疑応答等

応募締切: 12月15日(金)

【主催】農都共生総合研究所 【協力】国立大学法人 千葉大学



上段左から農都（川辺）、峯岸氏、天野氏、吉田氏 下段左から豊田氏、澤邊氏、鈴木氏、藤戸氏

農福連携技術支援者の集い

【会場】千葉大学 100 周年記念戸定ヶ丘ホール（千葉県松戸市）

【日時】2023 年 12 月 22 日（金）13:00~16:00

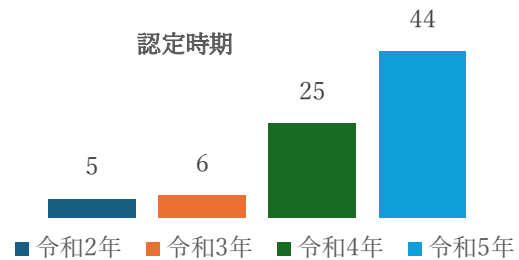
【申込】現地：12 件、オンライン：69 件【当日】オンライン：97 人

申込アンケート

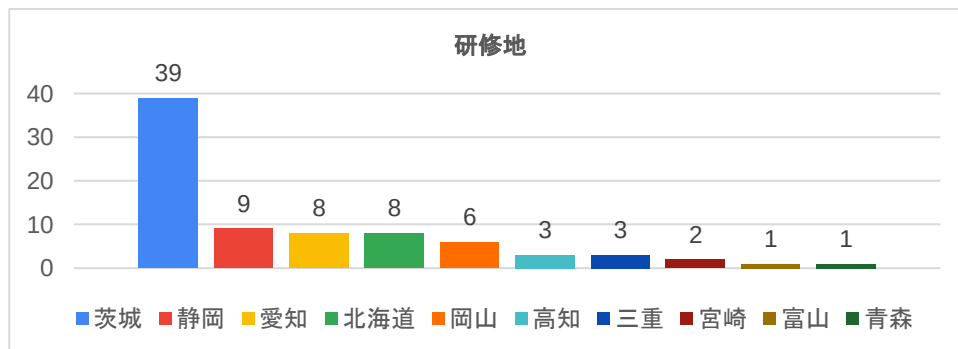
参加方法（回答81人）



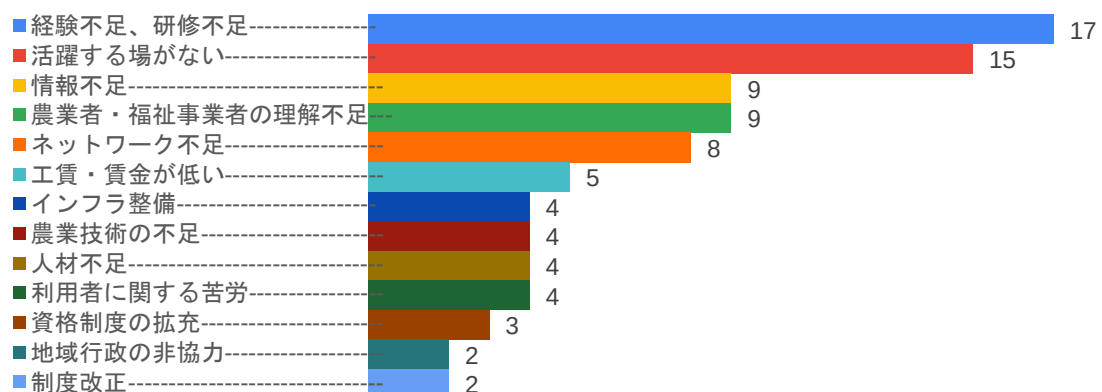
認定時期



研修地

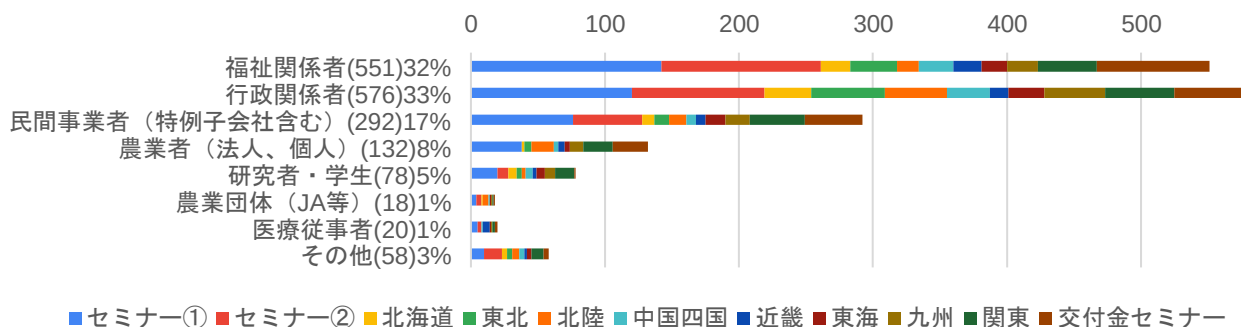


農福連携技術支援者として感じている課題（回答73人、自由記述を分類）

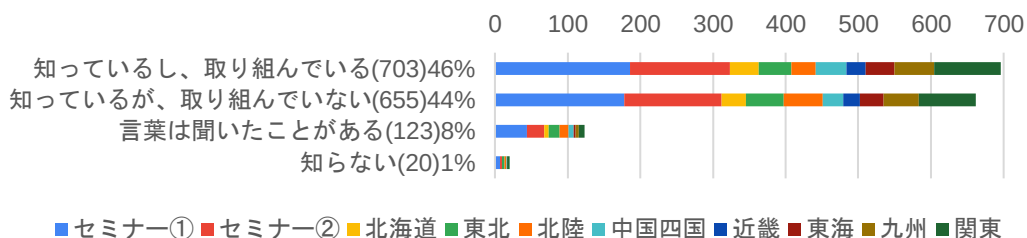


セミナー・フォーラム申込者アンケート全会場合算

申込者の職業（回答総数1725）

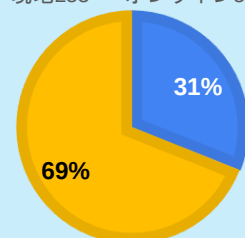


あなたは「農福連携」を知っていますか。（回答総数1501）



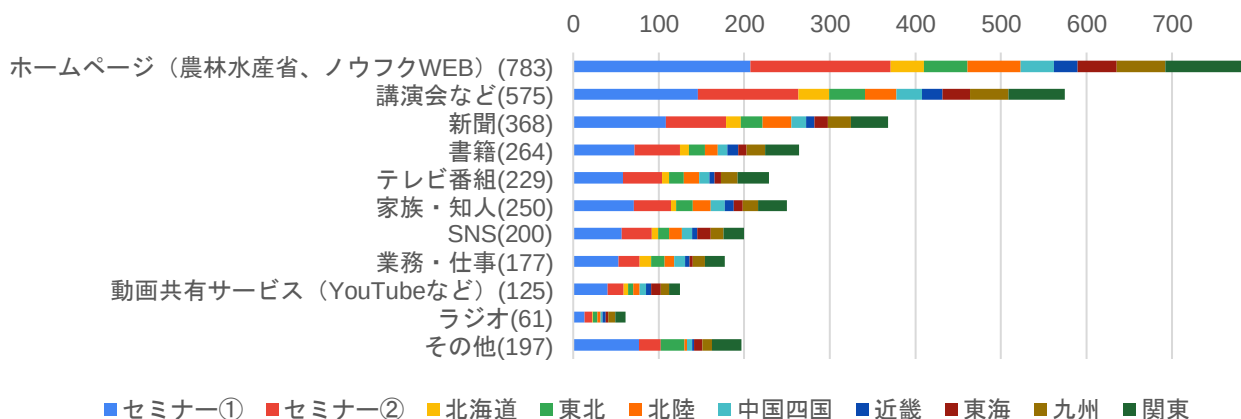
フォーラムの参加方法

■ 現地253 ■ オンライン563

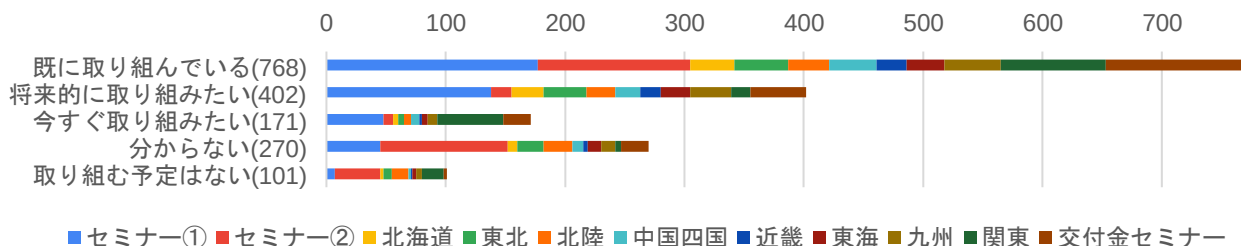


注：セミナーは全てオンライン

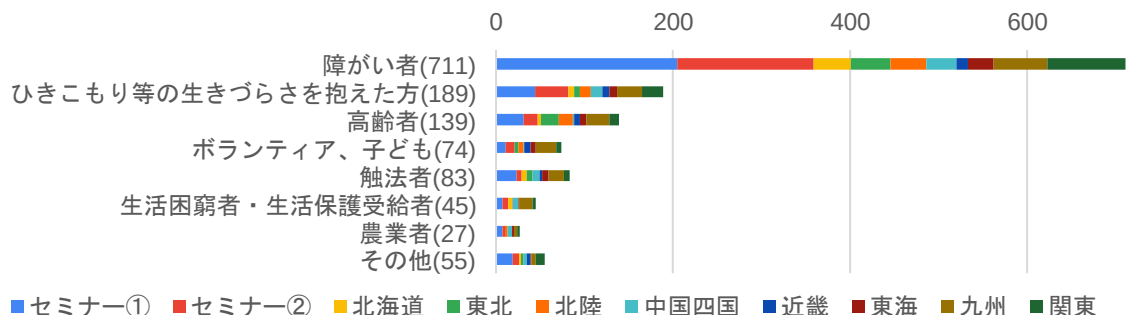
農福連携を何で知りましたか？（回答総数1364、複数選択）



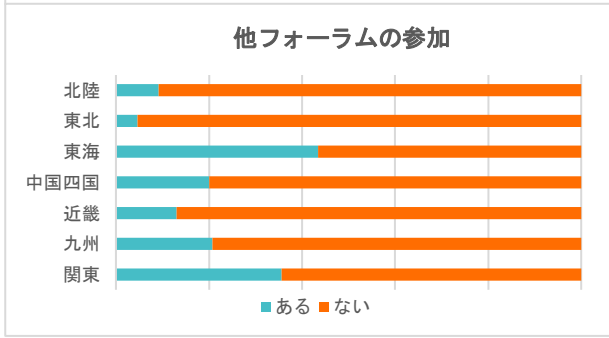
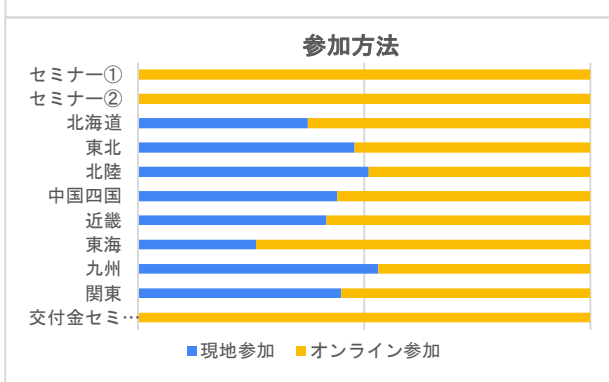
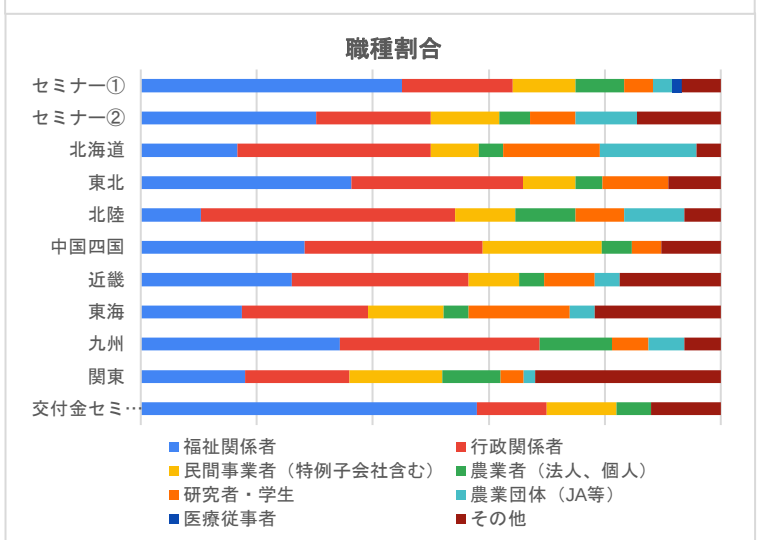
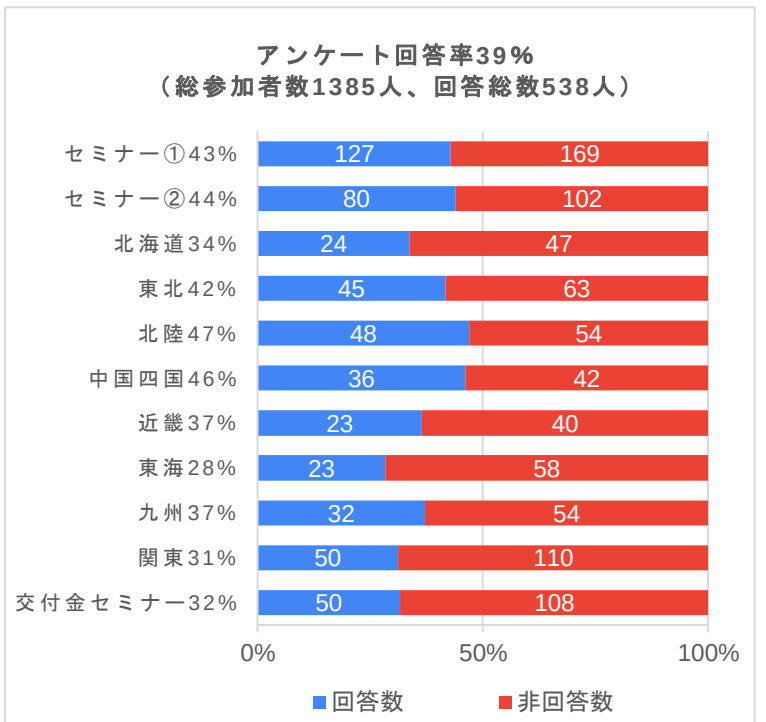
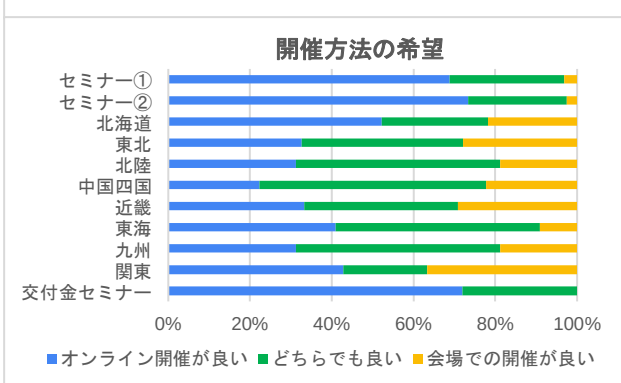
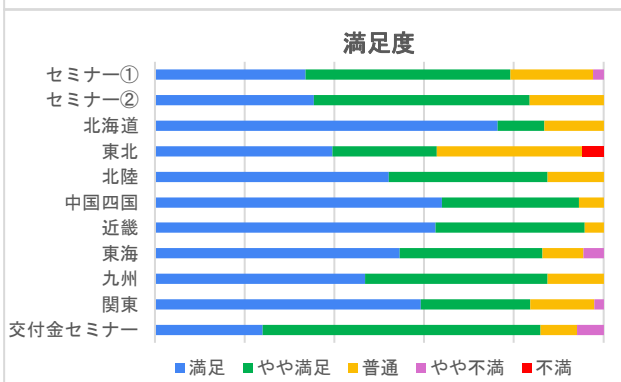
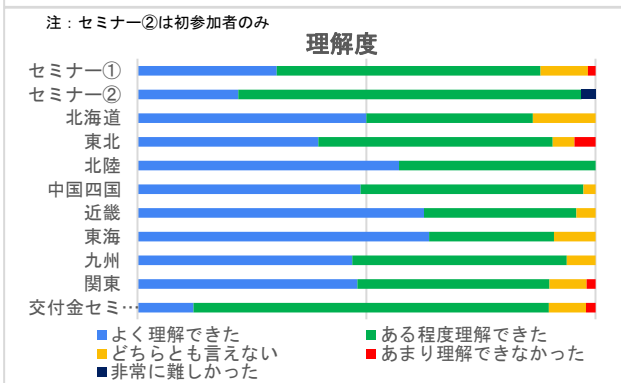
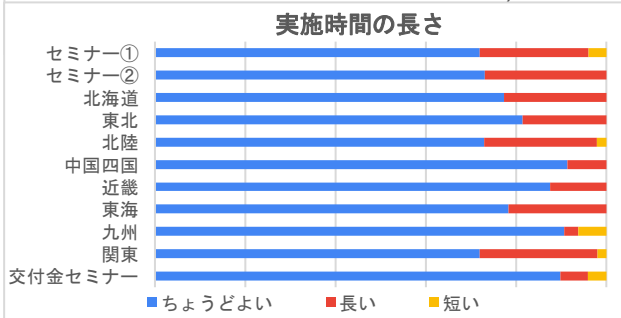
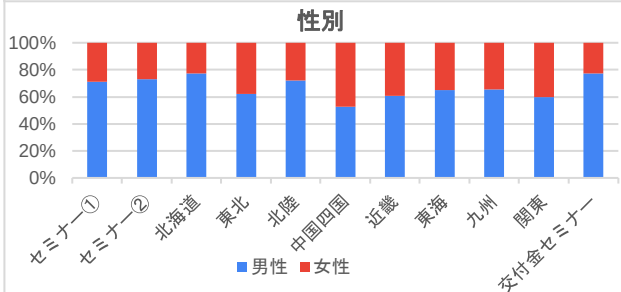
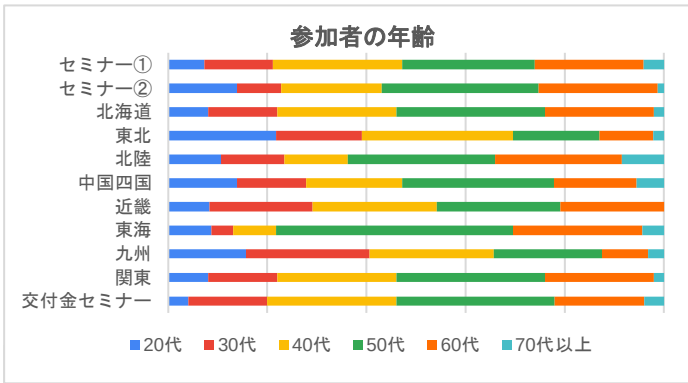
農福連携の取組状況（回答総数1712）

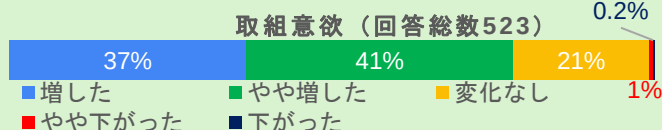
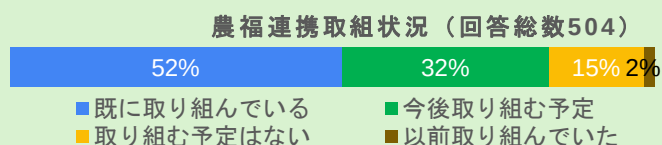
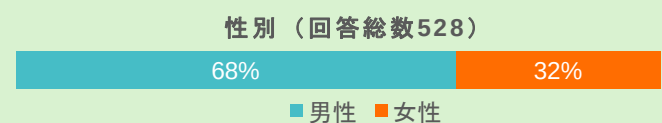
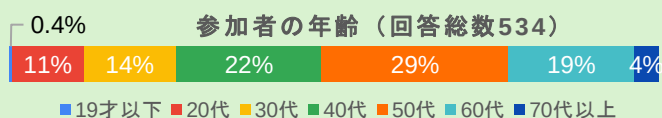
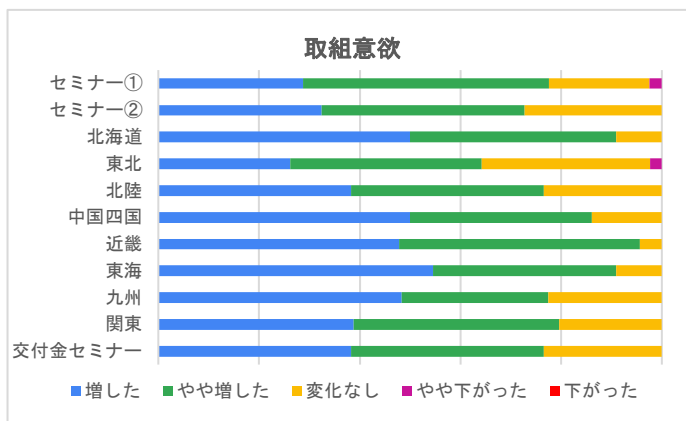
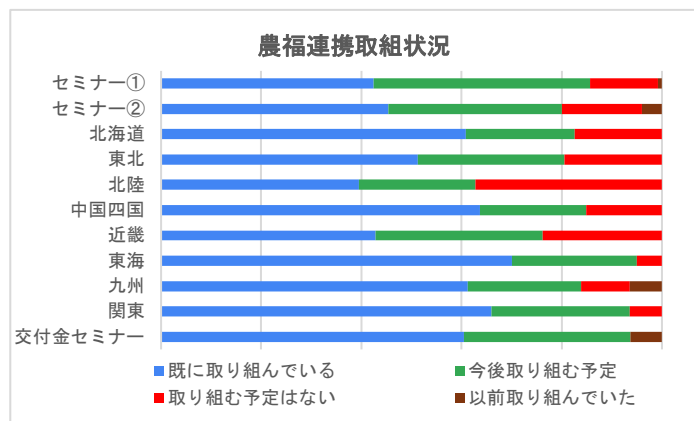


身近な農福連携に取り組んでほしい対象（回答総数1225、九州のみ複数選択）

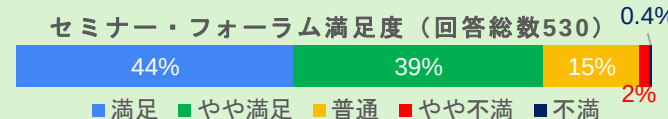
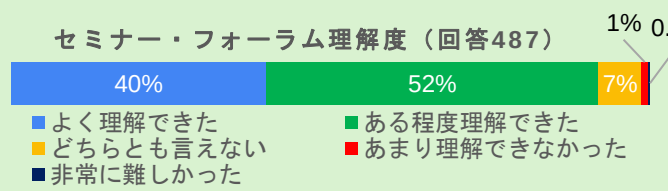
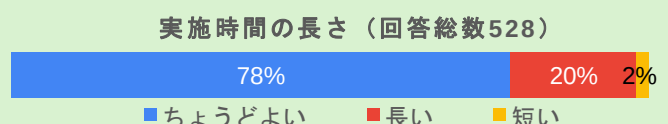


セミナー・フォーラム実施後アンケート会場比較

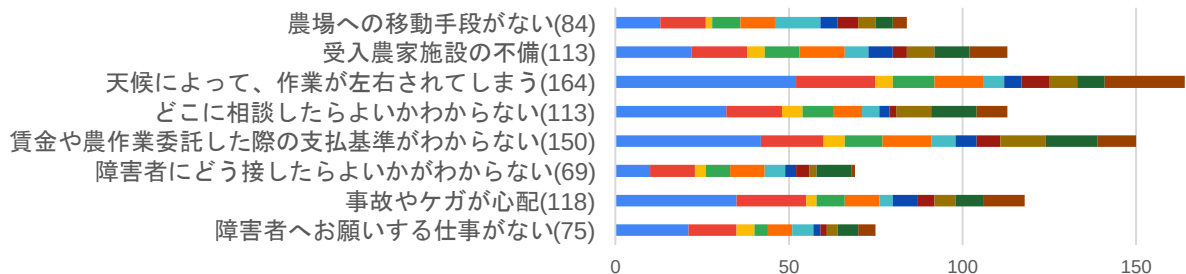




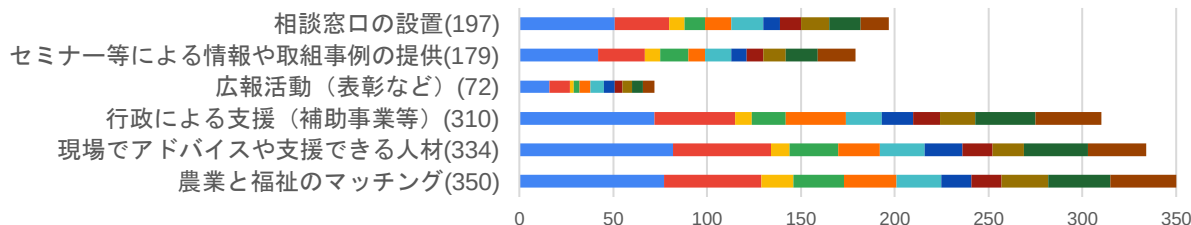
セミナー・フォーラム実施後アンケート合算



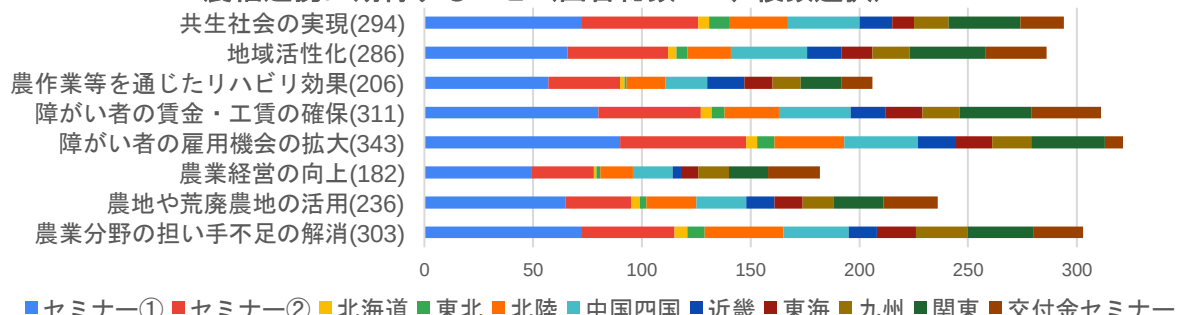
農福連携に取り組むための課題（回答総数479、複数選択）



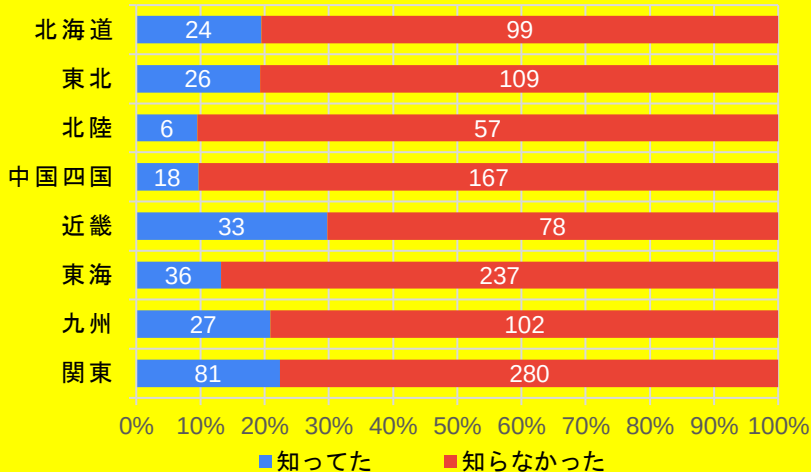
農福連携に取り組むために必要なこと（回答総数523、複数選択）



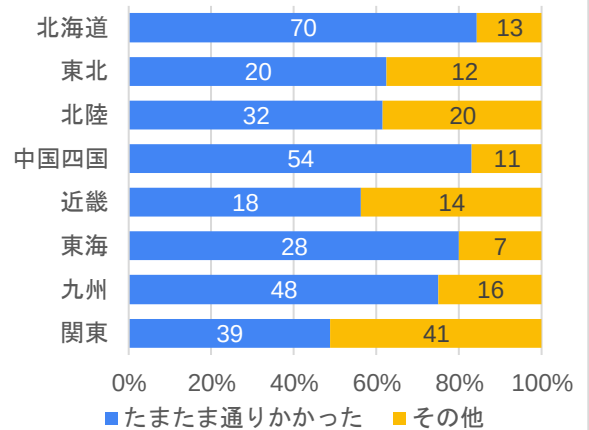
農福連携に期待すること（回答総数528、複数選択）



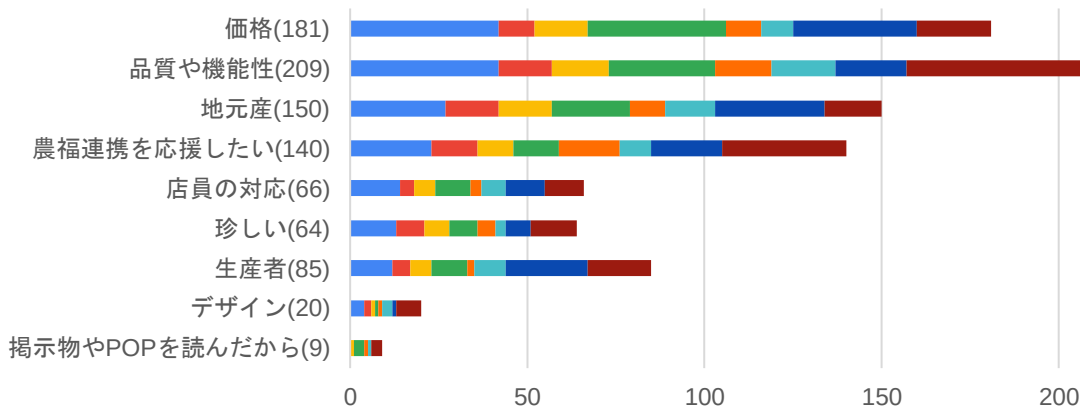
「農福連携」街頭認知度調査（総数1380人）



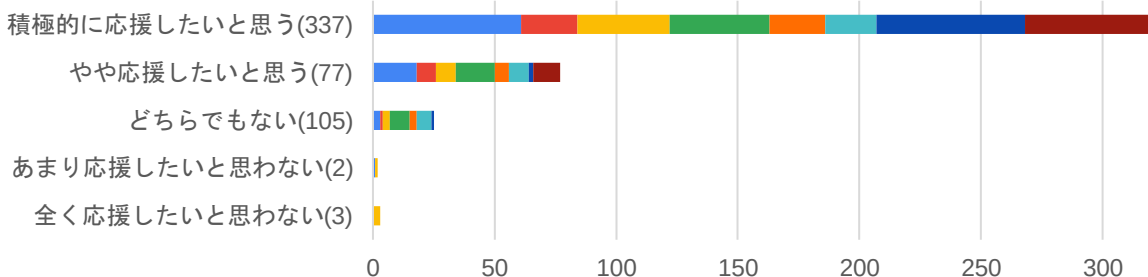
マルシェ来場理由（回答総数443）



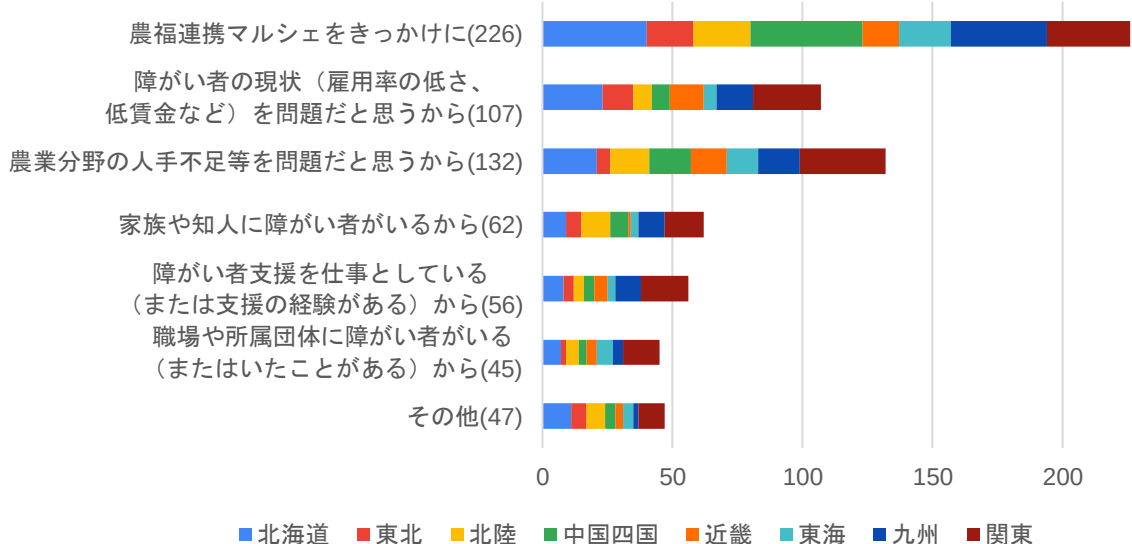
購入理由（回答444人、複数選択）



「農福連携」応援度合い（回答444人）



「農福連携」を応援する理由（回答439人、複数選択）

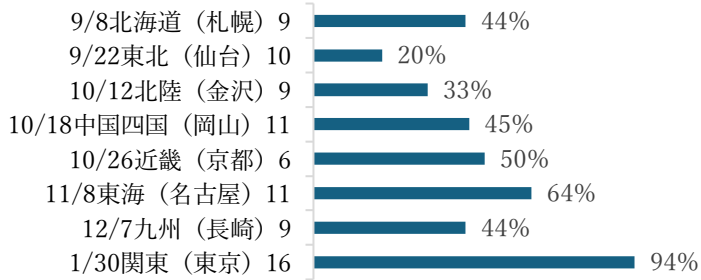


マルシェ購入者アンケート全会場合算

マルシェ出店者実施後一斉アンケート

開催日・開催地・出店数

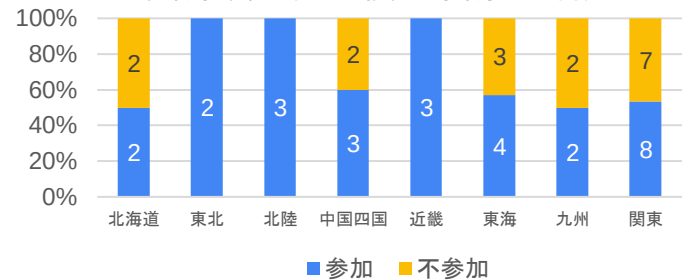
アンケート回答率



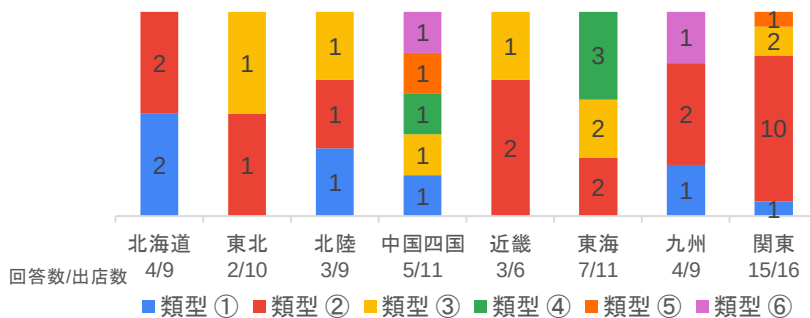
総出店数 81

アンケート回答数 43（回答率 53%）

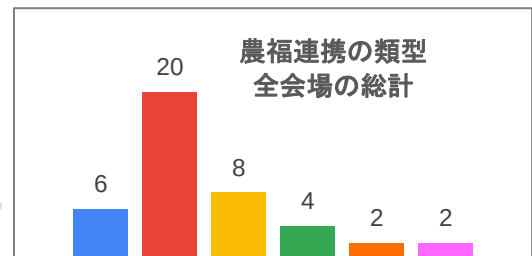
回答事業者に占める福祉当事者参加の割合



アンケート回答事業者の農福連携の類型

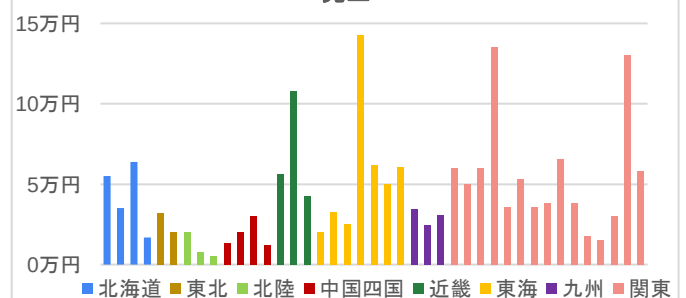


農福連携の類型
全会場の総計

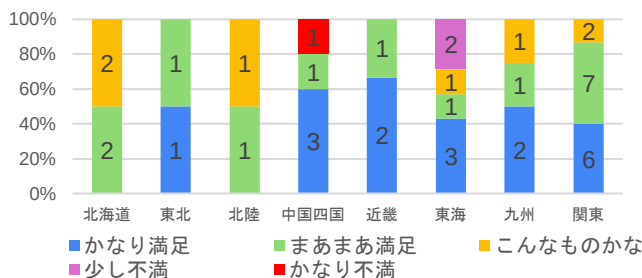


- 類型①**：社会福祉法人等から施設外就労の形で障害者が農家で農作業の手伝いをする。
類型②：社会福祉法人等が自ら農作業を行ったり、農業法人を別途立ち上げ併設させる。
類型③：農家や農業法人が障害者を雇用したり、障害者就労支援施設を別途立ち上げ併設させる。
類型④：企業が子会社を設立して障害者就労の場を確保する。
類型⑤：病院やNPO法人等が障害者に農作業に取組んでもらうことで身体や精神の状態を良くして、いこうとする園芸療法の取り組み。
類型⑥：その他

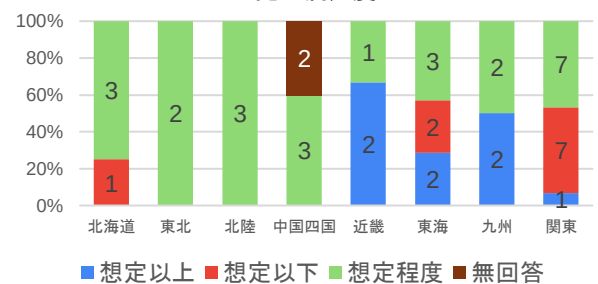
売上



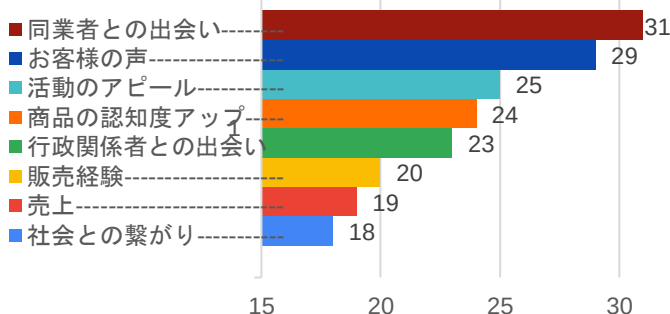
出店者満足度



売上満足度



農福連携マルシェ参加で得たいもの（複数選択）



今後の参加希望



まとめ

分析と課題

1 セミナー・フォーラム申込者アンケート¹

<分析>

1-(1)職種

全体で見ると福祉関係者と行政関係者の割合が同じ程度に多く、合わせると約3分の2を占めた。農業関係者は1割弱だった。

1-(2)認知度

農福連携を「聞いたことがある」や「知らない」という程度の認知度である申込者も約9.5%存在した。

1-(3)認知経路

農福連携を知ったのはホームページ（農林水産省、ノウフクWEB）や講演会と答えた申込者が圧倒的に多かった。

1-(4)意欲

農福連携の取り組み意欲は「わからない」「取り組む予定はない」が約22%あり、農福連携の取り組みに積極的ではない申込者も存在した。

1-(5)対象

農福連携に取り組んでほしい対象としては約60%が障害者と答えた。

1-(6)農福連携技術支援者の課題

「農福連携技術支援者の集い申込者」が同支援者として感じている課題は「経験不足、研修不足」と「活躍する場がない」といった回答が多く、次いで「情報不足」や「農業者・福祉事業者の理解不足」「ネットワーク不足」が多かった。

<課題>

1-①認知度とその段階に応じた支援の必要性

セミナー・フォーラムの申込者の中には、農福連携を「これまで知らなかった」または「聞いたことがある」程度の認知度である者が1割ほど存在した。こうした人たちが段階を追って農福連携への理解を深め、取組にまでつながりうるサポートや企画が必要である。

取組の濃淡は様々あって良く、「関心があるけれども取組むことができない」という人に向き合い、その第一歩を踏み出す切っ掛けとなるような環境整備を行うことが、農福連携の裾野を広げるためには必要である。

1-②ホームページ以外の情報発信の不足

申込者が農福連携を知った媒体は、ホームページやイベントにおける関係機関の直接発信の力が大きいことがわかるが、他の媒体による発信が足りていないと解釈することもできる。現状は、既存の農福連携関係者の内輪イベントの枠を出ていない、との厳しい見方もできる。

1-③対象者イメージの偏り

農福連携に取り組んでほしい対象は「障害者」が一番多かったが、他の選択肢である「ひきこもり等の生きづらさを抱えた方」や「高齢者」「ボランティアや子ども」「触法者」「生活困窮者」が農福連携の対象となることの認識が薄い可能性がある。障害者以外の取組にもフォーカスを当てながら、農福連携の可能性や多様性、有効性を共有していくことが必要である。

1-④農福連携技術支援者のネットワーク強化の必要性

農福連携技術支援者は2023年5月12月時点で489名が認定されているが、12月22日に開催した「集い」の申込者

は81人と、約17%に過ぎない。常設のネットワークとしては2022年12月30日に作成されたフェイスブックグループがあり、現在（2024年3月）の登録者数は108人となっている。しかし、十分に活用されているとは言い難い。農福連携技術支援者への期待や役割は大きいが未だ模索段階であるため、情報や課題の共有ニーズは高い。同グループの拡大や活発化を図り、年に一度の「集い」の在り方もさらに有意義なものへと変えていかなくてはならない。

2 セミナー・フォーラム実施後アンケート²

<分析>

2-(1)アンケートの回答率³

セミナー3回とフォーラム8回の実施後アンケートの総回収率は約39%だった。フォーラムのみでは、申込者の約31%が現地参加だが、実施後アンケートの回答者に占める現地参加者の割合は45%で、現地参加者はオンライン参加者よりも回答率が高い。

2-(2)年齢構成

アンケート回答者は40代50代が比較的多いものの、次いで60代、30代、20代と、会場毎のばらつきはあるが、比較的多様な世代の参加が見られた。

2-(3)男女比

全回答者の男女比は男性68%女性32%だった。

2-(4)満足度と取組意欲

総計では、「満足」44%と「やや満足」39%を合計した83%がおおむね満足だったと答えている。「取組意欲」については「増した」37%、「やや増した」41%を合わせると78%が意欲を増していた。

2-(5)開催方法の希望

開催方法は、フォーラムに関してはオンライン開催と会場開催の希望が同じ程度であり、北海道はとりわけオンライン開催の希望が多かった。オンラインで開催した3つのセミナーはいずれもオンライン開催の希望が多かった。

2-(6)農福連携に取り組むための課題

「天候によって作業が左右されてしまう」が一番多く、次いで「賃金の支払い基準がわからない」だった。

2-(7)農福連携に取り組むために必要なこと

「農業と福祉のマッチング」が一番多く、「現場でアドバースや支援できる人材」「行政による支援（補助事業等）」を含めた3点が特に多かった。

2-(8)農福連携に期待すること

「障害者の雇用機会の拡大」が最も多く、僅差で「障害者の賃金・工賃の確保」「農業分野の担い手不足の解消」が続いた。

<課題>

2-①女性参加者の割合が低い

実施後アンケートの結果から見ても、当セミナー・フォーラムの参加者に占める女性の割合は少ない。なぜ女性参加者が少ないのか調査する必要がある。農福連携には多様な担い手の参入が望まれ、こうしたセミナー・フォーラムに女性が参加しにくい要因は、福祉当事者等が抱える課題と共通項がある可能性もある。

2-②参加者の満足度について

満足度については、総じて高水準だった。しかし、東北会場は「満足」40%「やや満足」23%の合計が63%で、他会

² セミナー・フォーラム実施後アンケートの会場比較は p30、総計は p31、個別の結果は各イベントの項を参照

³ 参加者数は、現地参加者数は申込数、オンラインは Zoom に記録されたアクセス者総数である。

¹ 総計は p29、個別の結果は各イベントの項を参照

場の約 8 割以上に比して特に低かった。「普通」33%と「不満」5%の回答者の中には「あまり理解できなかった」との回答者はなく、「普通」の中に実施時間が「長い」との回答者はいたが、「不満」と回答した人は実施時間については「ちょうどよい」と答えていた。実施時間の長さや理解度とは別の要因によって満足度が低かったものと思われる。

2-③参加しにくさの調査の必要性

参加したくてもできなかった人のニーズは、参加していない人を対象に調査しなければわからない。当事業のイベントを平日に開催したことにもメリットもあればデメリットもある。開催日やその時間帯、長さについても、事業効果を最大化するための検討が必要である。

2-④農福連携と農業現場の共通課題

「農福連携に取り組むための課題」として多く選択された天候や労働環境は、農業者にとっても厳しい側面であるが、体調管理を必要とする福祉当事者にとっては特に厳しい要素である。労働環境の過酷さが農業離れの一因であり、農業者にとっても改善が望まれる。農福連携を推進することが農業者自身の環境改善に本腰を入れる契機となりうる。

2-⑤中間支援者の重要性

「農業と福祉のマッチング」が農福連携に取り組むために必要なこととして多く選択された。両者の接点づくりが大きな課題となっており、マッチングをコーディネートする機関や人材の必要性が浮き彫りになっている。つなぐ役割を担う農福連携技術支援者、農福連携コーディネーターなどの中間支援者の役割は大きい。

3 街頭認知度調査⁴

<分析>

3-(1)回答総数は 1380 人「知っていた」251 人（18%）「知らなかった」1129 人（82%）だった。

3-(2)認知度が一番高かったのは近畿で 30%、一番低かったのは中国四国会場と北陸会場の 10%だった。

<課題>

街頭認知度調査は、マルシェ会場の来場者とその周辺の通行人を対象にシール投票を行ったものであり、地域の実態よりも高い結果となっていると考えられる。にもかかわらず「知っている」と答えた人の割合が、調査した全国 8 か所のどの地域でも 3 割に満たないということは、国全体として「農福連携」という言葉ですら認知している人が少ないことを示唆している。

4 マルシェ購入者アンケート⁵

<分析>

4-(1)来場理由

「たまたま通りかかった」のではない「その他」の割合が一番多かったのは関東で 51%、次いで近畿 44%、北陸・東北 38%、一番低かった（すなわち「たまたま通りかかった人」が多かった）のは北海道 16%、次いで中国四国 17%、東海 20%、九州 25%だった。全体では「たまたま通りかかった」62%「その他」38%だった。

4-(2)購入理由

「品質や機能性」が一番多く、次いで「価格」だった。

4-(3)農福連携の応援度合

「積極的に応援したいと思う」が圧倒的に多かった。

4-(4)応援する理由

「農福連携マルシェをきっかけに」が一番多く、次いで

「農業分野の人出不足等を問題だと思うから」、「障害者の現状（雇用率の低さ、低賃金など）を問題だと思うから」が続いた。

<課題>

4-①マルシェ販売に必要な説得力

立ち寄って見て回ったとしても購入に至るには、一段と高いハードルがある。一定の説得材料（物語）が必要であり、価格に見合う価値と品質は大前提だが、それを説明するためのストーリーづくりが必要である。

4-②出店者と来場者との意識のズレ

一般的には「マルシェ」は、生産者直売ならではの品質の高さと、比較的安価であること、対面販売の信用力に魅力がある。しかし、マルシェ出店者の多くが 6 次産業化による収益性の向上を図っている。こうした意識のズレを埋める努力が必要である。

4-③普及啓発効果の高さについて

たまたま通りかかった人が、農福連携商品の品質や機能性、価格の良さを評価して購入した上で、農福連携を取り巻く問題を理解し応援するに至るのが、普及啓発としての農福連携マルシェの理想である。

回答者全体の 62%が「たまたま通りかかった」購入者であるにもかかわらず、応援度合いでは「積極的に応援したいと思う」が約 76%で圧倒的に多かった。一方で購入理由に「農福連携を応援したい」を選択したのは約 36%で、「品質や機能性」（約 47%）や「価格」（約 41%）は「応援」を上回っていた。

5 マルシェ実施後出店者アンケート⁶

<分析>

5-(1)回答率

アンケートは全てのイベントが終了した令和 6 年 2 月に行ったため、最後に開催した関東会場への出店者の回答率が最も高かった。

5-(2)総出店数

総出店数は 81 でアンケートの回収数は 43、回答率 53% だった。

5-(3)福祉当事者の参加

回答した 43 事業者の内 16 事業者（37%）で福祉当事者の参加があった。

5-(4)出店者の類型

出店者の農福連携の類型は「類型②社会福祉法人等が自ら農作業を行ったり、農業法人を別途立ち上げ併設させる。」が一番多かったが、全体としてはすべての類型があった。

5-(5)売上

売上には出店者間でかなりの差があった。売り上げの最高額は東海会場の 142,900 円だった。

5-(6)売上想定

売上は 16%が想定以上、56%が想定程度、23%が想定以下だったと回答した。中でも関東会場の約半数が想定以下の売り上げだったと回答した。東海会場の 2 店と北海道会場の 1 店も想定以下と答えた。一方、近畿会場 2 店や九州会場 2 店、東海会場 2 店、関東会場 1 店は想定以上だったと答えた。

5-(7) 出店満足度

「当マルシェへ参加したことの満足度」は「かなり満足」40%「まあまあ満足」36%で 7 割以上が満足と回答した。一方で「少し不満」2 店「かなり不満」も 1 店あった。

⁴ P32 参照

⁵ P32 参照

⁶ P33 参照

5-(8) 次回参加希望

同様なマルシェを開催する場合の参加を希望したのは84%だったが、上記で「かなり不満」と答えた中国四国会場の1事業者は「もう参加したくない」と回答した。

5-(9) 「マルシェ参加で得たいもの」

「マルシェ参加で得たいもの」は、「同業者との出会い」が最多で、次に「お客様の声」、「活動のアピール」と続いた。

<課題>

5-①マルシェ主催者の責任について

普及啓発事業であったとしても、生産者にとっては売れた量が一番の成果である。客がいたとしても実際に売れるかどうかは出店者次第ではあるが、マルシェを開催する主催者には客が溢れる会場にする責任がある。たまたま通りがかる人には限りがある。事前の周知活動でたまたまイベントを知る確率を高める努力が必須である。そうした活動そのものが普及啓発活動なのであり、出店者満足度は総じて高かったが、事前活動が不十分だったことは否めない。

5-②当事業における農福連携マルシェの特徴について

自治体単位や有名どころが集まる全国単位の農福連携マルシェは少なくないが、都道府県を跨いだ地方農政局の管轄地域といった規模で各地の先進事業者が集まって開催するマルシェは珍しい。出店者の大部分は大手流通網で販売している事業規模ではないから、来場者にとっては、各地の事業者の元へ行かなければ入手できない個性的な商品と一度に多く出会うことができるとともに、様々な農福連携の取組を知ることのできる、とてもユニークなイベントだった。また、出店者同士にとっても、各地に点在している先進事業者が集うことにより、互いに知り合い高め合うことのできる貴重な機会となった。

事業成果

<認知度向上セミナー>

・実施後アンケート回答者の8割以上が一定の理解度と満足度を示し、取組意欲が増していた。

<農福連携フォーラム>

・実施後アンケート回答者の8割程度が一定の理解度と満足度を示し、取組意欲を増していた。

<農福連携マルシェ>

・アンケート回答した出店者の約7割が想定程度以上の売上げを得て、満足感を得ていた。
・購入者アンケート回答者の約6割が「たまたま通りかかった」購入者だったが、7割以上が「積極的に応援したいと思う」と答え、来場者の認知度及び理解度の向上に貢献した。

<農福連携技術支援者の集い>

・実施後アンケートで「来年度も参加したい。」が約9割で、満足度の高いイベントとなった。

<メディア露出>

東海、九州、関東の各会場の様子が報道された。
・スターキャット・ケーブルネットワーク「農福連携マルシェ【StarCatウィークリー】」2023年11月16日放送
・テレビ長崎「マルっと」「注目 農業×福祉の互いの課題解決へ 長崎市で「農福連携」のイベント」2023年12月7日放映
・日本農業新聞「農福連携活動を共有 東京でフォーラム 販路拡大し工賃増」2024年1月31日首都圏版13面掲載

事業統括（所感）

■WEBセミナー：農福連携に取り組もうとしている、あるいは始めたばかりの方々へ向けた「一歩め」や「次なるステップ」の「きっかけづくり」を主目的として開催し、有識者と実践者（農・福・企業）に登壇いただき、それぞれの立場で理論的かつ実践的な内容をお話いただいた。オンライン配信ではあるものの、ありがたいことに会場に赴いてくださった登壇者が半数以上であり、おかげで登壇者同士の活発な議論へとつながったのではないかと思います。参加者においても、一定の理解や満足度を得られたとともに、取組の初期段階にいる実践者・実践者候補の方々がどのような課題と直面しているかについて、改めて表出化できたと考えられる。交付金活用セミナーについては、実際の活用者と農水省・厚労省からの具体的な情報提供があり、具体的な制度活用方法のヒントを得られたのではなかろうか。

■農福連携技術支援者の集い：当日は、関係者を含めると150名程度の参加があり、千葉大学吉田教授の御縁で、農福連携に関わる千葉県庁やJAの担当者の方々にも参加・発言いただいた。アンケート結果等にもあるように「技術支援者にはなったが、どのように活動すべきか」というアクションプランに悩む方々が一定数見られるため、技術支援者としての学びやネットワークをどう構築し活かすかについて定期的な議論の場づくりの必要性が改めて表出化された。

■フォーラム・マルシェ：北海道・東北・中国四国・北陸・近畿・東海・九州・関東と、全国8箇所において、フォーラムとマルシェを徒歩15分以内で移動できることを基本として、相乗効果を図りながらの開催であったが、主目的は「それぞれの地域の農福連携の魅力を伝えること」であった。フォーラムを通じ、その取組の背景にどんなライフストーリーや理念そしてネットワークが生じたかなどについての議論が交わされ、マルシェにおいては、取組の成果と言える農産物や加工品等を通じて、農福連携の魅力を各地域の方々へ伝えるとともに、登壇者同士、来場者、出店者同士など、幅広い交流機会にもなったのではないかと拝察する。このような「交流機会」や「魅力発信」をより深めかつ掘り下げたかという後悔もあるが、上記セミナー含め、映像や本報告書等の多くのアーカイブズを残せたことはひとつの成果と考えている。そして、そこに満足することなく、このアーカイブズや抽出された課題、生じたネットワークなどを活かし、いかに実践的醸成を図れるかが今後の大きな課題であり、当研究所としても、実践研究及び実践支援の取組を今後も継続し深めていきたいと考える次第である。

<事業実績報告書>

令和5年度農山漁村振興交付金
農山漁村発イノベーション推進事業
(農福連携型のうち普及啓発・専門人材育成推進対策事業)

報告者-----株式会社農都共生総合研究所
東京都文京区湯島1-8-4 山川ビル7F
noufuku@notosoken.jp
提出日-----2024年3月31日